

2001年度

講義計画

桃山学院大学

第一

第二

第三

第四

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語文化特講（対照言語学）		通 期	4 単位	大 石 正 晴
【講義概要・学習目標】 対照言語学は言語と言語の対照研究を通じてそれぞれの言語の特性を明らかにし、また言語の本質を考えようとする言語学の一分野である。最近、国際関係の進展から、言語間の対照研究の重要性があらためて認識されるようになった。本講義では、日本語と英語を対照の素材として取り上げ両者の相違を見ることにする。英語と日本語はいずれも異なった言語体系に属するため、文法、語彙、表現、音声・音韻等において著しい相違があり、この点が日本語を母語とする人たちに英語の学習を極めて困難にしている。しかし一方では、この違いを克服して英語を使用可能なレベルまで習得する必要があることもまた事実であるとすれば、日英語の相違点を理論的に追及するだけでは不十分である。本講義の目標は、理論的な面をしっかりとおさえた上で、実際に使える英語を生産することができるような方法を、できる限り多くの例を用いて習得してもらうことにある。日英語の違いが何に起因するかをそれぞれの発想の違い、さらにそれを生み出す文化的背景などを可能な限り深く探索してみたい。	【講義計画】 先ず、日英語の比較対照が必要な相違点を実際の例に基づいて概観する。次に、そうした違いが生じる言語文化の多様性や接点を考察する。そして、そこから得られる知識を活用して実際に英語らしい英語を作り出す原理や方法を見つけ出すように努める。 講義の成果の有無は、受講者が受講したことを自ら実践に移せるかどうかという点にある。特に、日本語を母語とするものにとって日英語の違いの本質を知ることにより、一層容易に正しい英語の使用が可能になるという実践的な効果も大切にしたい。そのためには、日本語から英語へというライティングの作業も可能な限り取り入れてみたい。 基本的には、講義内容の理解と、その上に立った英語使用力の向上といった実践面をバランスよく行いたい。			
【成績評価の方法】 前期・後期の定期試験、出席率、レポート等による総合評価	【参考文献】 「対照言語学」 石綿敏雄 高田 誠(著) 桜楓社 「日本語の意味英語の意味」 小島義郎(著) 南雲堂 「文化と発想とレトリック」：日英語比較選書（1） 巻下吉夫 瀬戸賢一（著） 研究社 「発想と表現」：日英語比較講座 第4巻 国広哲弥(著) 大修館書店 その他適宜紹介する			
【教科書】 プリントを用意する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文化特講（子供：東西史の隠れ担い手）		通 期	4 単位	フィリップ ビリングズリー Philip Billingsley
【講義概要・学習目標】 こどもは普段、歴史教科書に登場しない。新聞にも（「問題」を起こしたとき以外）あまり見えてこない。最近になってようやく虐待などから守られる権利を勝ち取ったとはいえ、社会を動かす力は皆無に近い。学校で子どもが体罰を受けても社会は知らん振りをしてきたが、大人だった場合加害者は逮捕されるだろう。意見を強く訴えようと「生意気」、校則に従わないと罰される、登校しないと「問題児」扱いされるのはこどもの日常である。しかし、こうして無視されがちのこどもは実はどこの社会においてももっとも期待される存在。現在と未来をつなげる貴重な存在である。当講義では、こどもの目を通してヨーロッパ、中国、そして日本の文化を見つめることにした。「大英帝国」・「大日本帝国」それぞれの名においての「国民教育」に抵抗する 19 世紀イギリスと日本のこどもたち、「文化大革命」を通して中国を「革命路線」に引き戻そうとした毛沢東共産党主席に主役として選ばれたこどもたち、様々なケースにおいて、文学、日記、ポスター、絵画などを使ってその時代を生き抜くために苦境に追いやられた子供の現実が伝わるよう努めるつもり。	【講義計画】 未定			
【成績評価の方法】 毎回の提出物、期末テスト、及び出席率	【参考文献】 随時配布する			
【教科書】 なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化史		通期	4単位	原山 煌
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>中国を中核とする東アジア世界を有機的な統一にしてきた大きな要因に漢字がある。漢字という文字システムによって、中国は多彩豊富な文化を発信し続けることが出来たのである。そして、まさにその漢字によって中国で生まれた文化複合が周辺世界に伝播し、その刺激を受けて周辺各地で固有の民族文化が形成されていったのである。この講義においては、中国における漢字の発達、それぞれの時代における漢字の意義、また漢字を用いて展開された中国の情報文化のさまざまな展開などについて、実例を挙げながら考えて行こう。</p> <p>また、周辺諸地域における文字の形成、情報伝達の発展というテーマについても併せて探索してみよう。さらに、ここでは、周辺諸民族の問題として、無文字社会における情報伝達のありかたというテーマが特に考えるべき問題として採り上げられることになるだろう。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. この授業の目的と講義の進め方の説明 2. 中国世界とはなにか 3. 中国における文字のはじまりー甲骨文と金文ー 4. 神との伝達手段から人間の道具へ 5. 書写材料という要件 6. 文字を持つということ 7. 中央ユーラシアにおける文字の形成 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業への理解度と出席状況を確認するための小テスト、年数回のレポート(参考文献を3冊以上参照したオリジナルな論考に限る。既存文献の丸写しは除籍)と、各期末の定期試験の成績によって総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業中に随時紹介する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>藤枝晃『文字の文化史』講談社学術文庫 講談社 1977。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本思想史		通 期	4 単位	三 宅 正 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本人に大きな影響を与えた前近代の思想の歴史的展開を追う。原典の読解に重点を置いて内容の理解を深める。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神道(『古事記』など) 2. 仏教(『浄土三部経』『入宗綱要』『諸宗仏像図彙』など) 3. キリスト教(『どちりな・キリシタン』など) 4. 儒教(『太極図』『太極図説』など) 5. 陰陽道(『大雑書』など) 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験。(講義に欠かさず出席して内容の理解に努めていれば単位取得は容易。欠席が多ければ困難)</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>資料を西配布する。ただし、西配布時に出席している人に1回限りで交付する。そのとき欠席した人に対する追加西配布や持参することを忘れた人に対する再西配布は行わない。毎時資料を参照しなければ講義の理解は困難になる。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア思想史		通期	4 単位	リン 林 コウサク 宏作
[講義概要・学習目標] 四千年にも及ぶ中国思想史を一年間二十数回の講義では到底延べ尽くすことはできない。本年度は春秋時代から秦の天下統一まで、主に諸子百家の思想を明らかにし、それぞれの代表的な思想家について述べたい。		[講義計画] 1. 中国思想史の意義ならびにその分期について 2. 諸子百家の時代 3. 孔子 4. 孟子 5. 荀子 6. 墨子 7. 老子 8. 荘子 9. 韓非子		
[成績評価の方法] 前期末及び後期末のテスト、レポート、出席状況に基づいて総合的に評価する。		[参考文献] 狩野直喜 『中国哲学史』 岩波書店 武内義雄 『中国思想史』 岩波書店 小島祐馬 『中国思想史』 創文社 森三樹三郎 『中国思想史』 第三文明社		
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民俗学		前期集中	4 単位	橋 内 武
[講義概要・学習目標] 庶民の伝承文化を観察・記述するのが民俗学である。本講では、まず民俗学とは何かという問いに答えたと、さまざまな伝承文化について解説する。究極的には伝承文化への興味と関心を抱いて、履修生諸君が自ら身近な民俗事象への考察を進めることができるようになることをその学習目標とする。		[講義計画] 1. 民俗学とは何か — 民俗学の課題と方法 2. 人生儀礼 — 誕生から葬送まで 3. 年中儀礼 — 盆と正月 4. 俗信 — 予兆・ト占・禁忌・呪術 5. 昔話 — タイプと研究方法		
[成績評価の方法] 期末試験による。		[参考文献] 上野和男ほか、『新版 民俗調査ハンドブック』、吉川弘文館、1987。 福田アジオほか編、『日本民俗大辞典』（上・下）、吉川弘文館、1999。		
[教科書] 稲田浩二・稲田和子、『日本昔話100選』、講談社、1996。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化研究（歴史） （旧日本文化研究Ⅱ）		通 期	4 単位	横 井 清
[講義概要・学習目標] 「中世京都における庶民生活文化史」を主題とし、対象の時期順・問題別に章・節・項目を立てて順次講義を進め、主題の理解へと導きたい。 昨年度までの講義の内容・方式とは大幅に異なり、かなり専門的な講義となるので、その点は予め十分に留意し、参考となる図書にも自主的に親しみながら、常時聴講に努めることがいっそう肝要である。	[講義計画] 計画の詳細については、年度初めの授業時間に説明する。			
[成績評価の方法] 学年度末の筆記試験（試験期間内試験）による。	[参考文献] 必要に応じて、随時、資料プリントを配付する。 参考とすべき図書などについては、随時、授業の中で紹介する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化研究（文学） （旧日本文学概論）		通 期	4 単位	深 澤 徹
[講義概要・学習目標] 平安時代の文学テキストについて概説する。おそらく受講者は女性が多いであろうから、仮名文で書かれた「女流文学」の流れに注目しながらその歴史的展開を跡付ける。実は「女流文学」という呼称自体が問題で、まずこうした枠組みの成立（それは鎌倉期になってようやく形成される）の問題から入っていく予定である。ただ単に、テキストに沈潜するのではなく、その歴史的な流れを批判的に見ていくつもりである。なおテキストの原文は古文であるが、その都度現代語訳しながら論を運ぶので、古文が苦手でも受講に支障は生じない。	[講義計画] 1. 新古今時代の文化意識 2. 天台本覚思想と文学概念 3. 仮名文ニヒリズムと文字の物神化 4. 江戸国学による古典学の復興 5. 国民国家創出過程における文学観の変容			
[成績評価の方法] 夏期と年度末の二つのレポートと、出席状況を総合的に判断して評価する。	[参考文献] 教場にて指示する。			
[教科書] 『古典入門』（筑摩書房 1998/¥1,800）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化研究（韓国・朝鮮文化） （旧韓国・朝鮮文化研究Ⅰ）		通 期	4単位	青 野 正 明
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年、日本と韓国との交流がさまざまな分野で盛んになってきた。そのため、現代韓国に関心をもつ人たちが急激に増えている。</p> <p>そのような状況を踏まえて、この授業では韓国・朝鮮文化一般を概説していく。具体的には、歴史・地理・宗教・言語・社会制度などの諸項目について、視覚資料の多い教科書を用いながら学ぶことになる。</p> <p>知識として知ること必要だが、異文化の特質を見いだし理解するための視座や学問的技術も併せて修得することを目指したい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>歴史 地理 宗教 言語 社会制度 風俗 集落と住居 衣服 料理と酒 美術 舞踊・演劇 音楽 北朝鮮事情</p> <p>また、在日韓朝鮮人の人権、日韓の歴史教科書問題や、韓国での日本の大衆文化「開放」についても講義する予定である。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて授業中に紹介する。また、プリント類も配布する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>金両基監修『読んで旅する世界の歴史と文化・韓国』 新潮社、1993年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化研究（中国文化） （旧中国文化研究Ⅱ）		通 期	4単位	松 浦 典 弘
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>東アジア世界に大きな影響を及ぼしてきた前近代中国の文化を検討する。中国に特徴的な現象を取り上げることによって、受講生が伝統中国の本質を捉えることができるように進めていきたい。</p> <p>他の歴史世界と比較して、中国史に関しては連続性が強調されることが多いが、どのような点が引き継がれてきたのだろうか。そうした点についても時代に応じて変化している部分はあるはずだが、一体どう変わってきたのか。現代中国との関わりも視野に入れながら述べていく。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>中国とは 中国の北と南 農耕と牧畜 中国人と歴史学 皇帝という存在 士と庶 科挙と中国社会 宦官</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験を基準に評価する。レポートや小テストなどにより、日頃の取り組みも加味する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中、適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化研究（東南アジア文化） （旧東南アジア文化研究Ⅱ）		前期集中	4 単位	小 池 誠
【講義概要・学習目標】 この講義では歴史と言語、民族の構成、多様な民族文化から始めて、今まさに変化しつつある東南アジアの社会と文化の現状までをテーマとして取り上げる。多様な文化のあり方を理解するために伝統芸能や儀礼などの民族文化だけでなく、映画・ポップス・テレビなどの現代のポピュラー文化なども題材に取り上げたい。受講者の関心と理解を深めるために、できるかぎりビデオなどの視聴覚教材を使用する予定である。多様な東南アジア諸国のなかから、前半はインドネシアを中心に、後半はシンガポール・フィリピン・タイを中心にして講義を進めたい。受講者には、各国の民族的・文化的多様性をその歴史的背景とともに知ってもらいたい。また、それぞれの国民が現代の国家体制のなかでどのように生き、どう自分たちを表現しているのか理解してもらいたい。	【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1 東南アジアへのアプローチ法 2 インドネシアの歴史と言語 3 インドネシアの政治と宗教 4 インドネシアの生活文化（衣と住宅） 5 インドネシアの地方文化（ジャワとスンバ） 6 インドネシアのポピュラー文化（テレビと音楽） 7 シンガポールの二言語教育 8 シンガポールの住宅と生活 9 フィリピンの多様な民族文化（山の民と海の民） 10 フィリピンのポピュラー文化 11 タイの仏教と都市文化 12 タイの民族芸能 			
【成績評価の方法】 出席と試験の成績を基本にして評価する。また、必要に応じて提出を求めるレポートの成績も加味する。	【参考文献】 講義のなかで必要に応じて紹介する。			
【教科書】 小池誠『インドネシア——島々に織りこまれた歴史と文化』三修社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋文化史		通 期	4 単位	岩 津 洋 二
【講義概要・学習目標】 今日のヨーロッパはEU（欧州連合）として統合されつつある。国民国家の時代に形成された（イタリア人とフランス人とかの）各国民意識を越えた「ヨーロッパ人」意識をもつ人々も増大している。他方では、それぞれの民族の文化的伝統の独自性をまもろうとする運動も高まりを見せている。この講義は、おおきく変貌しようとしているヨーロッパとヨーロッパの人々の現在を理解するための枠組みを提示することを目的とする。 したがって、建築や美術といった特定の文化的な領域の歴史をたどるような講義ではない。多くの日本人にとって憧れの的であったヨーロッパの、一般にはあまり注目されることのない側面に焦点を当てながら、その文化的特質について考察する。EUのおこなった最新の意識調査などもデータとして利用されるであろう。 近代の日本人の西洋への無批判的な憧憬を解体し、西洋を冷静に見直すきっかけとなる講義にしたいと考えている。	【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> I. 西洋文化史の課題と射程 II. 西洋文化の伝統と近代 III. 西洋の統一性と多様性 IV. 西洋の自己規定 （第1回目の講義で、より詳細な講義計画を示す）			
【成績評価の方法】 何回かのレポートと学年末の試験による。	【参考文献】 授業中に指示する。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋思想史		通 期	4 単位	山 川 偉 也
「哲学の根本問題」と題して、以下の西洋思想史上の十人の思想家を取り上げる予定。アナクシマン드로ス、パルメニデス、プラトン、アリストテレス、アウグスティヌス、カント、ベルクソン、フッサール、ウイトゲンシュタイン、ハイデッガー。				前期はアナクシマン드로ス、パルメニデス、プラトン、アリストテレス、アウグスティヌスを、後期はカント、ベルクソン、フッサール、ウイトゲンシュタイン、ハイデッガーを論ずる予定。
[成績評価の方法] 出席態度、前・後期試験の結果を総合的に判定して決定する。		[参考文献]		
[教科書] 山川偉也『古代ギリシアの思想』（講談社学術文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教史		通 期	4 単位	伊 藤 高 章
[講義概要・学習目標] ヨーロッパ宗教改革に対するカトリック側の反宗教改革運動の中で成立したイエズス会、及びイエズス会士フランシスコ・ザビエルの活動を手がかりに、近世のキリスト教の歴史を広く学ぶ。またこの時代の西ヨーロッパの国際関係、海外貿易、帝国主義的な進出にも言及し、教会の側からみた教会の歴史ではなく、人類の歴史におけるキリスト教の動きに注目する。 キリスト教とアジア文化、特に日本の文化との接触の問題もとりあげる。		[講義計画]		
[成績評価の方法] 前期提出のブックレポート 2～3本 夏期休暇中に作成する小論文 後期授業における研究発表		[参考文献]		
[教科書] フィリップ・レクリヴァン『イエズス会』（「知の再発見」双書 53） 創元社 1996 年 遠藤周作『沈黙』		フランシスコ・デ・ザビエル 『聖フランシスコ・デ・ザビエル書翰抄』 上・下、 （岩波文庫 青 818-1・2） イグナチオ・デ・ロヨラ 『霊操』 （岩波文庫 青 820-1） 『ある巡礼者の物語』 （岩波文庫 青 820-2）		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学思想史		通期	4単位	松永 俊男
<p>[講義概要・学習目標] 科学とキリスト教の関係について講義する。 17世紀に成立した西洋近代科学は、神に由来する自然の秩序を見いだすことを目的にしていた。科学研究はキリスト教に奉仕するものだった。ところが、19世紀に科学と宗教の調和が崩れ、科学は宗教から分離していった。 講義では、ガリレオ、ニュートン、あるいはダーウィンらの科学がキリスト教信仰と結びついていたことを明らかにし、それにもかかわらず、なぜ科学と宗教が対立すると思われるのかについて考察する。</p>				<p>[講義計画] 前期 1. 宇宙観の変遷 2. コペルニクスの信仰と科学 3. ガリレオの信仰と科学 4. ニュートンの信仰と科学 5. イギリス自然神学の成立 後期 1. ビクトリア朝の信仰と科学 2. 化石の変遷の解釈と教会 3. 進化論とキリスト教 4. 科学と宗教の闘争史観の成立 5. 科学と宗教の闘争史観の否定</p>
<p>[成績評価の方法] 原則として、毎回の授業の最後に小テストを実施する。これが一定の水準に達しなければ、出席率が良くても不合格とする。また、最初の授業を含めて、前期に5回以上欠席した者は、理由の如何を問わず除籍する。</p>				<p>[参考文献] 松永俊男（著）『ダーウィンの時代—科学と宗教』（名古屋大学出版会）</p>
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ヨーロッパ文化研究（フランス文化）		通期	4単位	赤瀬 雅子
<p>[講義概要・学習目標] 交通・通信手段の発達によって、ヨーロッパは近くなったとはいっても、やはりわが国からは遙かに遠い存在である。そしてその遠い存在であるヨーロッパそのものは多様である。また多様でありながら、たしかにヨーロッパというひとつの文化圏を持ってもいるのである。 西歐中の西歐といえるフランスの文化は、確かに世界中から憧憬の眼を持って見られる文化のひとつであるが、時にアングロ・サクソンの文化圏からは、揶揄の対象としても見られる。 フランス文化の本質は、重厚で農民的なものである。もちろん厚い信仰心が文化の基層に在ることも忘れてはならない。そしてもっとも重要なことは、絶えず世界のあらゆる文化を見つめ、その文化に憧憬を持ち、その文化を自己のものとして取り込む独特の才能であろう。このフランス文化の他の追随を許さないコスモポリタンな性格を考察する。 なお、つねに比較文化的な視点をもって考えることの重要性も考慮してゆく。</p>				<p>[講義計画] ヨーロッパ文化としてひとつに括ることのできる文化の特質とは何かを先ず考える。次いでフランス文化について学ぶが、特にこの文化の根底に在る厚い信仰の問題、農民的な精神に触れたい。同時に都会中の都会であるパリの文化を考え、そのコスモポリタンな文化の受容の姿勢を考える。</p>
<p>[成績評価の方法] 前期末に提出するレポートと、学年末の試験とのふたつが重要であるので、どちらも欠かさないようにしていただきたい。出席率をよくすることも大切である。成績評価はそれらの総合によってなされるものである。</p>				<p>[参考文献] 富田仁著『パリ点描』（駿河台出版社）</p>
<p>[教科書] 小林 善彦著『フランス学入門』（白水社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカ文化研究 (旧アメリカ文化研究Ⅱ)		通 期	4 単位	谷 本 泰 三
[講義概要・学習目標] 何もなかった新大陸に移民たちが渡った時から、せいぜい300年くらいの間にヨーロッパ諸国に伍して世界をリードする超大国を作り上げたアメリカ人とは一体何なのか。アメリカ人はどのようにしてアメリカ人になったのか。そのエネルギーの本質はどのようなものなのか。アメリカには文化というにふさわしいものがあるのか。このような問題を考えながらHenry B. Parkes の著書を読み、これを補足し、批判し、さらに解説を加えながら講義を進める。ゲスト講師によるアメリカのフォークソングに関する講義も予定したい。	[講義計画] 1-6 アメリカ革命と独立 7-12 西部開拓 13-23 宗教：アメリカ文化の根底			
[成績評価の方法] 小論文（前期） 期末試験（後期） 平素の努力点	[参考文献]			
[教科書] Henry B. Parkes 著 <i>The American Experience</i> (研究社出版) 谷本泰三 (著) 『講義アウトライン』				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
インドネシア語		通 期	4 単位	北 野 正 徳
[講義概要・学習目標] この講義では、基本的なインドネシア語を学ぶことを目標としている。インドネシア語それ自体についての紹介から始まり、単語の表記と発音、基本的な語法と文法などへ進んでゆきたい。これらの項目を練習することを通じて、簡単な会話と作文ができるようになることが、この講義の最終的な目的である。また、授業では、インドネシア語が実際にどのように使われ、理解されているかをより良く知るために、インドネシアの社会や文化に着いてもコメントを加えてゆきたい。	[講義計画] ① インドネシア語の紹介 ② 表記と発音 ③ 基本的な語法と文法 ④ 発音・会話・作文の練習 ⑤ 簡単なコミュニケーション			
[成績評価の方法] 平常評価。出席、授業態度、各学期末頃に授業時間を使って書き取り・聞き取りを行う。	[参考文献]			
[教科書] 柴田紀男 『エクスプレス インドネシア語』 白水社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋文学史 イタリア・中世・ルネサンス時代の散文の展開 --ノヴェッラの歴史を中心に--		通 期	4 単位	米 山 喜 晟
[講義概要・学習目標] この講義の目標はかなり欲張っていて、まずヨーロッパ中世文学の様々なジャンルをひとわり眺めて、イタリア文学の全盛期が出現するまでの状況を簡単に眺めた後、イタリアの中世とルネサンス期の文学を概観する。さらにその中でも特に発達したノヴェッラというジャンルに焦点をあてて、その様々な変化を簡単に追跡しておきたい。	[講義計画] [前期] イタリアで文学が発達したのは意外に遅いが、ダンテ等の出現であっという間に、トップに立つ。それ以前の状況、首位に立つまでの過程をたどりながら、その条件などを考える。 [後期] ヨーロッパでトップの地位についたイタリア文学の中で、その散文の主要な部分を占めるイタリア・ノヴェッラの展開をたどり、その発展過程について考える。			
[成績評価の方法] 出席点とレポート	[参考文献] 米山・鳥居共著 『イタリア・ノヴェッラの森』（非売品）			
[教科書] 適当にプリントを用意する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語文法・文体論		通 期	4 単位	有 川 康 二
[講義概要・学習目標] 外国語学習に「おかしい」文はつきものである。（*：おかしな文。） a.*困ったらいつでも私へ来なさい。 b.*私が京都で撮ったの写真 c.*私の父は山田先生を知ります。 d.*先生、私の推薦状はもうおききになったんですか。（このままでは失礼） 何故おかしいのか。だが、彼らには彼らなりの論理がある。(a)は"come to me"と言うから。(b)は中国語では「我在京都照像的照片」で、「的」という日本語の「の」にあたるものがあるから。(c)は"know"＝「知る」だから。(d)は尊敬語を使用しているから問題ないはず。教科書として使用する『日本語の文法』には日本語のきまりと仕組みを探るための問いが用意してある。それらの中からポイントとなる問題を解いていく。	[講義計画] 日本語のきまりと仕組み、文の構成要素とその種類分け、「こと」の類型（述語の種類とその補語との結びつき）、「主語」「主格」「主題」、述語の活用、テンス・アスペクト、態（ヴォイス一格と動詞の形との相関）、心的態度（ムード）の表現、複文の類型、並列的接続、原因・理由、時の特定、条件の表現、連体修飾、被修飾名詞の形式化、文の名詞化と引用			
[成績評価の方法] 出席・筆記試験	[参考文献] 寺村秀夫（著）『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』（くろしお出版） 寺村秀夫（著）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』（くろしお出版） 寺村秀夫（著）『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』（くろしお出版）			
[教科書] 寺村秀夫（著）『日本語の文法（上）』（国立国語研究所（日本語教育指導参考書4）） 寺村秀夫（著）『日本語の文法（下）』（国立国語研究所（日本語教育指導参考書5））				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
語彙・意味論		前 期	2 単位	藤 原 健
[講義概要・学習目標] <p>ことばによる表現が、単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達的手段として、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。</p> <p>この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみたい。なお、テキストは後期の「文字・表記論」と共通である。両方登録する学生は、同じものを2冊購入しないように。</p>		[講義計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 単語と語彙 <ol style="list-style-type: none"> 1) 単語とは 2) 語彙とは 3) 語形 2. 語の数 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎語彙と基本語彙 2) 使用語彙と理解語彙 3) 語数とカバー率 3. 語の種類（語種） 4. 語構成と造語法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 語の構成成分 2) 造語法 3) 造語に伴う音声変化 5. 語の意味 6. 構文・文型における語彙 7. 文章と談話における語彙 		
[成績評価の方法] <p>定期試験（半期科目であるので、前期1回）により評価する。 詳しくは、授業初回に説明する。</p>		[参考文献] <p>浅野百合子（著）『教師用日本語教育ハンドブック⑤語彙』（国際交流基金／凡人社）</p> <p>森田良行・村木新次郎・相沢正夫（編）『ケーススタディ・日本語の語彙』（おうふう）</p>		
[教科書] <p>清水義昭（編）『概説 日本語学・日本語教育』（おうふう）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文字・表記論		後 期	2 単位	藤 原 健
[講義概要・学習目標] <p>言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、日本語ではどのように用いられているかを考えていく。</p> <p>日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑である。外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。</p> <p>この大学の「日本語教員資格科目」には日本語の音声を扱う科目がないので、この講義に必要な最小限の音声(学)に関する内容を、テキストを参照しながら適宜説明したい。</p> <p>なお、テキストは前期の「語彙・意味論」と共通である。両方登録する学生は、同じものを2冊購入しないように。</p>		[講義計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の表記法と基準 <ol style="list-style-type: none"> 1) 漢字の表記法（「常用漢字表」） 2) 平仮名の表記法（「(改定)現代仮名遣い」） 3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」） 4) 送り仮名の付け形 5) ローマ字の種類と表記法 2. 文字に関する知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 漢字(の成り立ち) (六書、部首、画数、字形等) 2) 仮名(の成り立ち) (真名、平仮名、片仮名等) 		
[成績評価の方法] <p>定期試験（半期科目であるので、後期1回）により評価する。 詳しくは、授業初回に説明する。</p>		[参考文献] <p>富田隆行・眞田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック②新・表記』（国際交流基金／凡人社）</p>		
[教科書] <p>清水義昭（編）『概説 日本語学・日本語教育』（おうふう）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅰ		通 期	4 単位	有 川 康 二
【講義概要・学習目標】 どんな教授法（教え方の哲学や方法）、どんな教科書にも長所と短所がある。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師にとっての）実践的な文法整理と（学習者にとって）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。 一定の制限された状況（＝教室内）や時間内（初級の集中コースとして例えば、週 15 時間の約 6 か月）に日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習を行い、「使える日本語」を身につけてもらう為には、教える側に特別な知識と技術が必要となる。同時に、「何故、自分は外国語を学ぶのか、何故、自分は日本語を外国語として教えるのか」という問いを問い続けなくてはならない。	【講義計画】 指示表現（こそあど）、形容詞（美しい／元氣だ）、存在表現（いる／ある）、時制（テンス）（食べる／食べた）、保留形（読んで）、保留形の連続、保留形＋補助動詞（書いている）、願望の助動詞（たい／たがる／ほしい／ほしがる）、可能態（読める）、意志形（読もう）、様態の助動詞（雨が降りそうだ）、推量の助動詞（ようだ／らしい）、保留形＋補助動詞（窓が開いている／窓が開けてある／窓を開けてある／窓を開けておく）、授受表現（やる／あげる／さしあげる／もらう／いただく／くれる／くださる）、受動態（食べられる）・使役態（食べさせる）・使役受身態（食べさせられる）、条件表現（雨が降ると行く／雨が降れば行く／雨が降ったら行く／雨が降るなら行く）、敬語			
【成績評価の方法】 出席・筆記試験	【参考文献】 三浦昭『初級ドリルの作り方』（凡人社）			
【教科書】 東京 YMCA 日本語学校（編）『入門日本語教授法』（創拓社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅱ	0 1	前 期	2 単位	友 沢 昭 江
	0 2	後 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 日本語学習者の多様化にそって、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自主作成教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。本講では、日本語教育において教科書や教材がどのような役目を果たすかを考えるとともに、実際に市販されている教科書を詳しく分析します。	【講義計画】 授業は、前半は講義形式で行い、後半はグループに分かれて教科書を分析し、その結果を発表します。			
【成績評価の方法】 学期末に試験を行います。それ以外にも授業への参加の姿勢、与えられた課題にしたがってのレポート作成、および出席状況（半期 1 3 回の授業なので、基本的には全出席を望みます）を総合的に考慮して評価を行います。	【参考文献】 『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社） 『教え方の基本』（日本語教育演習シリーズ⑤、丸山敬介、凡人社） 『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』（石橋玲子、凡人社） 市販の日本語教科書			
【教科書】 特に指定しません。（教員により配付されるプリント等を使用します。）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅲ		通 期	2 単位	友 沢 昭 江
【講義概要・学習目標】 <p>本講では日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を総合して、実際の教育の場面で学習者とのようなインターアクションを行うかという、実践力の養成を目的とします。知識として獲得したことをいかに効果的に提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題をどのように処理するかを、実際の授業形態の中で学びます。そのため、原則として日本語教授法Ⅰおよび日本語教授法Ⅱを終了した人へのみ受講を認めます。</p>	【講義計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見ること等を通して比較検討します。 ・グループに分かれて、基本的な教授内容をいかに実際の教育現場で教えるかを研究し、発表します。 ・グループ単位で、実際の授業を組み立て、模擬授業として発表します（二回）。 ・実際の日本語授業を見学したり、希望者には夏期休暇中には学外(国内・海外)での教育実習(希望者)を行います。 			
【成績評価の方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・学期初めにノートを作り、毎回の授業の内容をまとめるほか、適宜出される課題もそこに書き込み、一カ月に一回程度の割合でノートを提出してもらい、それを出欠を含む、授業への貢献度の材料として判断します。 ・グループ単位で行う作業は、学生間の相互評価を行います。(各自が評価表に書き込み、それをクラスで閲覧して、フィードバックとします。 	【参考文献】 <ul style="list-style-type: none"> 『日本語教育論集』(吉田彌壽夫監修、学研) 『概説日本語教育』(遠藤織枝編、三修社) 『日本語教授法』(石田敏子、大修館書店) 『実践日本語教授法』(名柄迪監修、中西家栄子他、バベルブックス) 『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』(名柄迪他、アルク) 『日本語教育への道』(土岐哲他、凡人社) 『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』(石橋玲子、凡人社) 『日本語の地平線』(吉田彌壽夫古稀記念論集編集委員会、くろしお出版) 			
【教科書】 <p>教員の用意する配付物を使います。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																																												
日本事情研究Ⅰ		通 期	4 単位	宮 本 孝 二																																												
【講義概要・学習目標】 <p>この講義では、現代日本社会(現在までに至る、いわゆる戦後日本)の社会と文化の全体像を、多様な社会学的分析を通じて展望する。全体像を把握するために、便宜的に政治(行政、政党、運動など)、経済(産業、企業など)、社会生活(家族、地域、職場、学校、犯罪など)、文化(科学・技術、宗教、芸術・芸能、思想・イデオロギー、マス・メディアなど)という領域を設定し、さらにそれらの相互関連領域(生活文化など)も含めて、体系的に整理しつつ解説していく。</p> <p>戦後から現在に至る日本社会といい、体系的整理といっても、あくまでも現時点で生じつつある新鮮で具体的な問題や事件をトピックスとして取り上げて、それらを戦後史を含む近代日本史、マクロなトレンド、全体的な社会構造などと関連づけて説明することによって、日本事情について広く深い理解を可能としたい。</p> <p>この講義は外国人留学生だけでなく、現代日本社会についての知識を全体的かつ体系的に整理しなおし、より深い日本理解を目指す日本人学生にも有用であるので、広く受講を薦める。</p>	【講義計画】 <table border="0"> <tr><td>1</td><td>日本という国民国家</td><td>13</td><td>芸術・芸能と娯楽</td></tr> <tr><td>2</td><td>現代日本の諸トレンド</td><td>14</td><td>思想・イデオロギー</td></tr> <tr><td>3</td><td>バブル崩壊以後の日本政治</td><td>15</td><td>マス・メディアとマスコミ</td></tr> <tr><td>4</td><td>バブル崩壊以後の日本経済</td><td>16</td><td>生活文化の諸相</td></tr> <tr><td>5</td><td>家族の変容と家族問題の深刻化</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>地域社会の多様性と都市問題</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>職業人としての生き方</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>社会化と教育問題</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>犯罪・非行と社会統制</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>科学・技術の発展と社会的影響</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>宗教、新宗教、新々宗教</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>主として以上のようなテーマを順次講義する。</p>				1	日本という国民国家	13	芸術・芸能と娯楽	2	現代日本の諸トレンド	14	思想・イデオロギー	3	バブル崩壊以後の日本政治	15	マス・メディアとマスコミ	4	バブル崩壊以後の日本経済	16	生活文化の諸相	5	家族の変容と家族問題の深刻化			6	地域社会の多様性と都市問題			7	職業人としての生き方			8	社会化と教育問題			10	犯罪・非行と社会統制			11	科学・技術の発展と社会的影響			12	宗教、新宗教、新々宗教		
1	日本という国民国家	13	芸術・芸能と娯楽																																													
2	現代日本の諸トレンド	14	思想・イデオロギー																																													
3	バブル崩壊以後の日本政治	15	マス・メディアとマスコミ																																													
4	バブル崩壊以後の日本経済	16	生活文化の諸相																																													
5	家族の変容と家族問題の深刻化																																															
6	地域社会の多様性と都市問題																																															
7	職業人としての生き方																																															
8	社会化と教育問題																																															
10	犯罪・非行と社会統制																																															
11	科学・技術の発展と社会的影響																																															
12	宗教、新宗教、新々宗教																																															
【成績評価の方法】 <p>原則として後期試験(授業中に配布する講義内容要約資料から出題する空欄埋め問題と、テーマを自由に設定し講義内容と関連づけて論じる記述問題)によってのみ評価する。ただし、自由提出のレポート(講義内容に関して自分で調べて書くものなど)によって加点することがある。</p>	【参考文献】 <p>その都度指定する。</p>																																															
【教科書】 <p>特に指定せず。</p>																																																

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本事情研究Ⅱ		通 期	4 単位	岡 村 清 人
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本が、近年飛躍的な発展を遂げている背景に、優れた工業材料の開発がいかに深いかかわりを持っているかについて講義を行う。日本の産業発展に大いに寄与している鉄鋼材料、そして、今日の半導体材料、セラミックス材料や複合材料などの先進材料が、今後の日本および世界の発展にいかに関連しつつあるかについて説明する。さらにこのような発展をもたらしている根源についても追求する。</p> <p>次に、発展に伴って、生活が豊かになり、リスクを負う状況にもなる。例えば産業廃棄物による環境破壊などである。従って経済発展、資源・エネルギーの確保、地球環境保全のトリレンマの克服が今後の重要な課題である。これらの課題について言及する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>〈前期〉 科学・技術について議論を行い、工業材料の発展の柱になっている鉄鋼材料に関して具体的に説明する。それらの材料の明治、大正、昭和、平成における発展の過程、社会への寄与、そして21世紀における創造的発展の可能性について、日本の教育体制などと関連させて講義を行う。</p> <p>〈後期〉 今日の先進材料と呼ばれている半導体材料、セラミックス材料、複合材料などが、工業材料として日本で大いに発展している事情について講義を行う。そして、これらの工業材料の専攻的開発が日本の将来の発展にいかなる影響を与えるかについて予測する。またそれらに伴う社会のリスクについても言及する。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートを主とし、出席など総合的に考慮して評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大石 嘉一郎（編）『日本産業革命の研究 上・下』（東京大学出版会） ・堂丸 昌男・山本 良一（編）久松 敬弘 他共著 『未来社会と材料工学』（東京大学出版会） ・H.W.ルイス（著） 宮永 一郎（訳）『科学技術のリスク』（昭和堂） ・村上 陽一郎（著） 『文明のなかの科学』（青土社） ・成定 薫（著）『科学と社会のインターフェイス』（平凡社自然業書24） 		
<p>[教科書]</p> <p>村上陽一郎（著）『科学・技術と社会』（光村教育図書）</p>				

<00～01L生対象>

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論A	01	通 期	4 単位	荒木英一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>いくつかのテーマをとりあげて、経済学の専門用語と基本的な考え方を学習していく。テキストにはいくぶん高度な内容も含まれるが、経済白書や日々の経済記事を理解する為には、この種の入門書をマスターしておくことが近道だろう。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>前期： 国民所得統計 GNPの決定 資産市場 IS/LMモデル</p> <p>後期： オープン・エコノミー 失業とインフレーション 消費・貯蓄と投資 景気循環と経済成長</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業中の小テストと出席点、学年末試験で総合評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>適宜に指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>開講時に指定します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論A	02	通 期	4 単位	モグベル ザファル
[講義概要・学習目標] この講義は、経済学を学ぼうとする学生のための近代経済学入門講義として、経済学の基本的な考え方や分析手法を紹介するものである。 さて、ここで経済に関する身近な問題の一つ出して見よう。 外国の大学の場合、在学期間に関する規定が緩やかなため三年や三年半で卒業する学生がかなり多い。しかし、現在の日本の制度では四年で卒業するのが最短距離である。そこで、不幸にも四年で卒業できず留年したとしよう。一年間の留年で学生の支払わなければならないコストはいくらだろうか？単純に考えると、それは一年間の学費とその他もろもろの費用の合計であろう。しかし、コストはそれだけですか？経済学の根底には「機会費用」という概念がある。それによれば、「A」という活動（就学）に従事するために支払わなければならないコストには「B」という活動（就職）を断念することによって失われるもの（所得）も含まれるのである。それで留年のコストは一気に上昇する。でも、ここでいう「失われた所得」は初任給の額を当てるべきなのか、それとも留年で定年が早まると考えて、定年前の最終給与を当てるべきなのか。この「ミクロ」の問題の背景には意外な広がりがあるのである。「マクロ」に目を転じて、社会全体が被るコストについて考えて見てもおもしろい。視点を少し変えて、「規制緩和」によって「在学期間四年」というルールを外国なみに緩和したらどうなるだろうか。日本経済全体の「豊かさ」や「効率」、「資源配分」や「人的資源の開発」にどう影響するであろうか。では、この続きは授業で。	[講義計画] I. 総論 (1) 経済学というのはどのような学問なのか (2) 世界経済の現状 (3) 日本経済の現状 I I. 需要と供給の織りなす世界 I I I. マクロ経済学と経済政策 I V. ミクロ経済学と個人や企業の行動 V. 外国貿易が提供するもの			
[成績評価の方法] 小テスト、学年末試験で総合評価する。	[参考文献] J. スティグリッツ (著) 「入門経済学: マクロ経済学、ミクロ経済学」 (東洋経済) 伊藤元重 (著) 「入門経済学」 (日本評論社)			
[教科書] 特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論A	03	通期	4 単位	矢根 真二
[講義概要・学習目標] 経済活動はきわめて身近な現象です。自動販売機でウーロン茶を買うのも経済学の分析対象です。ウーロン茶の満足感が投入したコインの費用を上回る人だけが購入すると考えるのです。すると、バイトに精を出すのもデートに出かけるのも、いずれもウーロン茶の問題と同じように考えることができます。 このように簡単なモデル（模型となる見方）によって、本当は複雑で多様な現実を簡単に理解しようというのが現代経済学の特徴です。ナマケ者にはピッタリだと思うのですが、実はこれが科学に共通する基本的な方法なのです。 ですから「科学としての経済学」の基礎を学習する基礎理論Aの目標は、現代の複雑で多様な経済現象を簡単に捉えられる基本モデルを修得することです。基本モデルは万国共通ですから、テキストには世界有数のエコノミストによるやさしい入門書を用います。この入門レベルのモデルを修得するだけでも、株式先物やデリバティブといった経済関連の話はもとより、ドラッグ密売・売春から環境汚染・少子化問題に至るような話に関わるエコノミストの常識を理解できるようになります。モデル思考は非常に便利で経済的なのです！ ただ、科学としてのモデル思考に慣れるには、たんに丸暗記するだけではダメで、現実を抽象化して論理的に考える習慣が必要です。実際、基本モデルの多くは簡単なグラフや中学程度の数式で表現されますから、未だに文系に数学は不要と考えているようでは時代遅れです。企画や経理はもとより人事や営業でも。プロになるには数字に強くなる必要があります。 もっとも忘れてしまったものは仕方ありませんから、講義では中学程度の知識も必要に応じてすべて解説しますから、不安になる必要はありません。	[講義計画] 大きな書店に行けば分かるように、科学としての現代経済学はミクロ経済学（経済原論IA-1）とマクロ経済学（経済原論IA-2）に分かれ、公務員などの各種試験の受験科目にもなっています。そこで基礎理論Aでは、両者の基礎になる現代経済学の（テキストの10大原理に相当する）常識を学習します。 現代経済学は、その基本的な考え方と構成を大胆に要約すると、 ① 複雑で多様な経済現象を理解するのに簡単なモデルを作って考える ② 「企業⇒産業⇒日本⇒世界」といった多様な問題を理解するのに、各段階で作ったモデルを組み合わせた複合モデルを使って考える となり、様々なモデルをまるでブロックのように積み重ねて作られています。そこで基礎理論Aでは、基本的なブロックとして多用される個人と社会の見方、つまり主体と市場の基本モデル、もっと簡単に言い直すと、 ① あなたや私、つまり消費者や生産者といったすべての個人の行動の見方 ② こうした個人の行動を総計したらどうなるかという市場の見方の解説に重点を置きます。まさに世の中を見る基本を学ぶわけですが、この2つのモデルは長い時間をかけて洗練されてきた最も基本的な道具ですが、今日では景気の見方や政府の見方も重要です。さらに最近では軍拡競争や広告戦争のようにかけひきを伴うライバルの見方や、ギャンブルから保険に至る不確実な将来の見方など、次々に新しい基本的なモデルが開発され、財政・金融・国際経済等の様々な分野で実際に利用されています。 時間をかけてモデル思考と基本モデルを重点的に解説する一方、時間の許す範囲で新しいファッションになりつつある基本モデルも解説する予定です。			
[成績評価の方法] ●試験の合計点が6割以上を合格とする予定。	[参考文献] ●現代経済学の基本モデルは、現代の主要な経済・経営現象だけでなく、教育・社会・法律・政治問題を読み解く鍵としても使われています。講義内容と参考文献の詳細は教員HP (http://rio.andrew.ac.jp/~yane/)を参照して下さい。 ●中学程度のグラフや数式も講義で説明しますが、それでも強いアレルギーが出る自信のある人でも、図書館などでドウリング『例題で学ぶ：入門・経済数学 上』シーエービー出版 の第1章・2章を読めば十分です。			
[教科書] ●マンキュー(2000)『経済学 I ミクロ篇』東洋経済新報社 世界中で使われ、講義で学習する主要な概念も分かりやすく説明されています				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論A	04	通 期	4 単位	中 村 勝 之
[講義概要・学習目標] 今あなたが自販機の前にいるとする。そして自販機にお金を投入してボタンを押す。そして取出口から出てきた商品を受け取る。自販機に投入されたお金はどうなるか？それは業者がお金を回収し、集めたお金は従業員に対しての給料や製造コストなどで支出される。こうして考えてみると、経済学とは「商品とお金の流れを学習する分野」だといえなくもない。しかしよく考えてみると、なぜあなたは自販機でお金を投入しボタンを押したのか？お金を回収する人はなぜそこで働いているのか？そこには何らかの理由（価値観とでもいい）があるはずであり、人々はそれに基づいた行動をとるはずである。このように何らかの理由（価値観）にそった行動（の選択）を「意思決定」といっているが、経済学とはまさに、「人々の意思決定」を研究する分野なのである。そこでこの講義では、「人々の意思決定」をどのように考えていけばいいのか、それに関する基本的な議論を解説していく。 とところで一見複雑に見える議論をわかりやすく説明しようと思えば、重要と思われるところだけを抽出して描きなおす必要がある。経済学においてはこの抽出、描きなおし（再構築）の作業にあたって「数学」を利用する。しかしながら数学を使うといっても、「計算がどうのこうの…」とは言わず、その数式が何を言おうとしているのか、その「意味」を考えるようにしていきたい。	[講義計画] まず前期の初めのほうで、年間を通じて利用される数学について解説する。その後「マクロ経済学」とよばれる分野を解説する。後期は「ミクロ経済学」とよばれる分野について解説していく。詳細については、第1回講義時に提示する予定である。			
[成績評価の方法] 年間通じて7~8回の「小テスト」を行い、それと「期末試験」の成績を総合評価する。	[参考文献] 具体的な文献に関しては講義中に適宜提示していくが、新世社から出ているテキストが比較的わかりやすい。自分にあったテキストを選んでいただきたい。			
[教科書] 使わない。適宜資料を配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論B	01	通 期	4 単位	阿 部 秀 二 郎
[講義概要・学習目標] 私達が暮らしている社会のことを「市場経済」とか「資本主義社会」などと表現したりします。それらのことばを説明するには「市場」・「資本」の意味を知らなければなりません。そして「市場」・「資本」を説明するためには、「商品（サービス）」・「貨幣」とは何かを知らなければなりません。さて、星の移動を観察した時に、どうして地球が動いていると思えたでしょうか？われわれは当然と考えていることの背後には、よく考えなければ見えない関係があることを認識しておく必要があります。 本講義では、ゆっくりと経済学の基礎的な用語と関係とを見てゆくことにします。	[講義計画] 「商品」「貨幣」「資本」			
[成績評価の方法] 試験の結果によって評価します。加点などの措置が必要であるか否かは講義の中で確認していきます。	[参考文献] カール・マルクス著『資本論』			
[教科書] 田中菊次、他（著）『現在の経済原論』（創風社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論 B	02	通 期	4単位	松尾 純
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義は、資本主義市場経済の最も基礎的な仕組みと概念を理解してもらうことを目的とします。資本主義経済の基礎的仕組み・概念を理解するためには、これをたんに「経済的に」見るだけでは十分ではありません。この経済社会を成り立たせている政治的・社会的・制度的な諸側面をも含めむ全体を分析しなければなりません。そのため、本講義では、経済学の歴史（重商主義、重農主義、古典派経済学、限界革命によって成立した新古典派経済学、ケインズ経済学等）と経済の歴史を概観します。これらを概観する中で、資本主義経済の政治的・社会的・制度的な諸側面をも含む包括的理解の仕方を身につけることが可能になるように配慮しつつ講義を進めていきます。なお、本講義は、直接的にはマルクス経済学（経済原論 I B）の基礎を解説することを目的としますが、上記講義内容から見て分かるように、その内容は、経済原論 I A の入門ないしは基礎理論ともなっています。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学とは何か。なぜ経済学を学ぶのか。 2. 経済史の概観。経済学の歴史の概観。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 重商主義 2. 重農主義 3. アダム・スミスの経済学。 4. D.リカードの経済学 5. J・S・ミルの経済学 3. 経済学の基礎理論 <ol style="list-style-type: none"> 6. 限界革命と新古典派経済学 7. ケインズ経済学 8. マルクス経済学 <ol style="list-style-type: none"> 1. 商品と貨幣 2. 資本と剰余価値 3. 資本の蓄積 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期末と後期末の2回のテストを行う。成績評価は原則的にこれによって行なうが、成績不良者を救済するために、講義中に数回テストを行う予定。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>テキストは指定しない。できるだけ出席してしっかりノートを取ることを。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I a	0 1	通 期	2 単位	高 田 里 恵 子
ドイツ語 I b	0 1	通 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 <p>このクラスは、I a・I bの両方を高田が担当する。 語学の習得のためには地味な努力が必要である。楽しい「会話」をするためには、まずは単語や文法を暗記しなくてはならない。暗記と繰り返し練習は語学の基礎である。この点は、覚悟しておくこと！ 一年間でドイツ語の文法を一通り学ぶというのが目標である。予習の必要はないが、授業についていくためには復習は欠かせない。地道な努力が報われるような授業にしていきたい。</p>		【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ語とはどんな言葉か 2. ドイツ語で言ってみよう あいさつと自己紹介 3. 動詞の人称変化 4. 冠詞と冠詞類 5. 前置詞 6. さまざまな動詞と助動詞 7. 時制 8. 関係代名詞 9. 受動態 10. 接続法 		
【成績評価の方法】 <p>前期と後期の最後に試験を行なう。また平常点も重視するが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味している。授業中の態度や勉強意欲を正當に評価できるように、授業のやり方や内容を工夫するつもりである。</p>		【参考文献】 <p>授業中に指示する。</p>		
【教科書】 <p>山本淳著</p> <p>新・じゃあ、またあした！（Tschüs, bis morgen!）</p> <p>同学社刊 2500円（予定価格）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I a	0 2	通 期	2 単位	竹 田 和 子
【講義概要・学習目標】 <p>この授業では、ドイツ語の基本的な規則を学ぶ。基本的な表現を一つずつマスターしながらドイツ語の輪郭をつかみ、一年間で簡単なドイツ語表現ができるようになることを目指す。教科書では、語彙はできるだけ少なくし、それを繰り返し用いることによって着実に身に付けられるようになっている。 授業では口頭練習をよく行うので、練習へは積極的に参加すること。外国語の習得には反復練習と暗記という地道な努力が必要である。しかしその成果は決して小さなものではない。EU内で最も使用人口が多いドイツ語をぜひ体得してほしい。</p>		【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1 動詞の人称変化 2 名詞 3 前置詞 4 接続詞 5 分節動詞 6 命令形 7 助動詞 8 過去形 9 完了形 10 受動態 11 zu 不定詞 		
【成績評価の方法】 <p>前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。</p>		【参考文献】		
【教科書】 <p>著者：本田和親、船津建 出題：ドイツ文法のポイントと演習 発行所：朝日出版社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I a	03 05	通 期 通 期	2 単位 2 単位	田 中 秀 穂
【講義概要・学習目標】 初めてドイツ語を学ぶ学生を対象として、初級文法の講義と演習を行なう。アルファベットや発音から始めて、基本的な文法事項を習得して行く。 ドイツ語には、主語によって動詞の形が変わる「人称変化」や、名詞や冠詞などが文中での統語的役割によって変化する「格変化」、独特の語の並べ方など、さまざまな規則があり、覚えるべきことも少なくはない。しかし、積極的に授業に取り組み反復練習を心がけ、文法を単なる知識として終わらせず確実に身につけてもらいたい。	【講義計画】 0 アルファベット、発音 1 動詞の現在人称変化 2 文を作る 3 名詞の性と格 4 不規則動詞 5 冠詞類、命令形 6 複数形、人称代名詞 7 前置詞 8 語法の助動詞、未来形 9 形容詞の格語尾 10 比較、非人称表現 11 時刻、分離動詞、非分離動詞 12 再帰動詞、接続詞 13 動詞の3基本形、過去人称変化 14 完了形、zu 不定詞 15 受動態、関係代名詞、接続法			
【成績評価の方法】 前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。詳細は、I a(初級文法)のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	【参考文献】			
【教科書】 著 者： 清水 薫 書 名： ドイツ文法・100語の世界 発行所： 同学社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I a	04	通 期	2 単位	山 崎 充 彦
【講義概要・学習目標】 外国語として英語を学び、おそらくは苦勞してきたみなさんにとって、新しい外国語を学ぶ意味はどこにあるのでしょうか。 一つは、新しい外国語を通して、(つまりここではドイツ語を通して)今までは違う世界をみて欲しいと思います。また、英語と同じ語族に属するドイツ語を学ぶことで、英語の構造を理解することがより深くなるでしょう。 それから、何よりも、英語とは違う外国語を学ぶことで、物事を複数の側面から判断する能力を養っていただきたいと思っています。 日本語・英語以外のチャンネルを持つことで、日本語や英語で得られる情報を絶対視しない柔軟な思考方法を身につけて下さい。 この講義では、ドイツ語の基礎的な文法を時間をかけて説明して行きます。ハードな水準は求めませんが、授業中に説明した文法事柄の復習に心がけて下さい。	【講義計画】 授業内容や進度は、原則としてテキスト通り			
【成績評価の方法】 前期と後期の試験によります。成績評価はI aとI bの担当者が相談し、総合的に判断して決められます。詳細はプリント「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」を参照して下さい。	【参考文献】 独和辞典必携			
【教科書】 信岡資生、 『クリック・ドイツ文法ードイツ語しよう、ドイツを知ろう(文法編)』 "Deutsch kennen, Deutschland kennen lernen [Grammatik]" 三修社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	02	通 期	2 単位	村 田 佳 隆
【講義概要・学習目標】 ドイツ語学習の土台をつくるのがこの授業の目標である。発音の練習をまずクーパーとこなし、最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。 毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。	【講義計画】 1. 発音 2. 動詞の現在人称変化 3. 冠詞 4. 前置詞 5. 形容詞 6. 分離動詞 7. 助動詞 8. 再帰動詞 9. 過去・完了 10. zu不定詞 11. 関係代名詞 12. 受動			
【成績評価の方法】 前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。詳細は1a（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	【参考文献】			
【教科書】 信岡、鹿見嶋、木下、日中 『ドイツ語四重奏 ドイツ語入門総合教材』 同楽社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	03	通 期	2 単位	竹 田 和 子
【講義概要・学習目標】 この授業では、少しずつ段階を踏みながら自分の日常生活をドイツ語で表現できるようになることを目指す。対話をしながら表現を覚え、また文法規則を応用できるようにする。授業では話すことに重点を置くが、内容を理解するために、和訳が必要なこともある。 授業では口頭練習をよく行うので、練習へは積極的に参加すること。外国語の習得には反復練習と暗記という地道な努力が必要である。しかしその成果は決して小さなものではない。EU内で最も使用人口が多いドイツ語をぜひ体得してほしい。	【講義計画】 1 動詞 2 前置詞 3 名詞 4 冠詞 5 疑問詞 6 非人称 7 命令 8 助動詞 9 過去形 10 完了形			
【成績評価の方法】 前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。	【参考文献】			
【教科書】 著者：佐藤修子、伊藤祐紀子 書名：スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語(新訂版) 発行所：三修社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	04	通 期	2 単位	坂 昌 樹
【講義概要・学習目標】 <p>この授業の重点は、反復練習と記憶にあります。はじめて学ぶドイツ語のもっとも大切な規則を、くり返し練習することで、しっかり身につけてください。そのために復習をかねて（たとえば連休明けや夏休み明けなどに）、小テストを行うこともあります。</p> <p>教科書には、文法にかんする学習を減らし、ドイツ語での会話を試みようというものを選びました。ドイツの風土や文化の紹介も、ゆとりのある限り試みるつもりです。</p> <p>授業中にわからないことがあったら、単語の意味から文の構造まで、何でもかまいませんからきいてください。ドイツ語の基本で覚えなければいけないことは、できるだけ授業中に覚えてしまいましょう。それができない時には、復習をこころがけてください。</p>	【講義計画】 <p>テキストに沿って進めていきます。</p>			
【成績評価の方法】 <p>毎回の授業で出席をとり、前期と後期の終わりに試験を行います。また平常点も考慮します。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定します。詳細は、1a（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照してください。</p> 【教科書】 <p>市川、レンツ、『ヴィー・ゲーツ、フランク？』、同学社、2001年。</p>	【参考文献】 <p>独和辞典を毎回持参してください。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	05	通 期	2 単位	村 田 佳 隆
【講義概要・学習目標】 <p>ドイツ語学習の土台をつくるのがこの授業の目標である。発音の練習をまずタップリとこなし、最良限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。</p> <p>毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。</p>	【講義計画】 <p>1. 発音 2. 動詞の現在人称変化 3. 冠詞 4. 前置詞 5. 形容詞 6. 分離動詞 7. 助動詞 8. 再帰動詞 9. 過去・完了 10. zu不定詞 11. 関係代名詞 12. 受動</p>			
【成績評価の方法】 <p>前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。詳細は1a（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。</p>	【参考文献】			
【教科書】 <p>小野、片岡 『明快ドイツ語』 朝日出版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	01 02	通 期 通 期	2単位 2単位	赤 瀬 雅 子
<p>〔講義概要・学習目標〕 フランス語は、あまたの外国語のなかで、発音がもっともむずかしい言語のひとつであり、また動詞の活用も多様である。しかし現代思想・現代文学の先端の書はフランス語で書かれたものが目立ち、また国際会議の公用語も英語およびフランス語である場合が多い。現代文化を考える上で必須の言語である。基本的な発音の法則、基本的な動詞の活用等が無理なく段階を経て理解されることを目指しつつ、フランス語の文化的背景をも考察する。</p> <p>読み、書き、話し、聴くことのすべてに一気に上達しようとする意欲はよいが、ただ焦るばかりで、すぐに上達しないと勉学を放棄してしまうこともよくある。それを防ぎ、着実に実力をつけるような勉強方法に中心をおいて学習を進める。学生の質問は実に多岐にわたるが、できる限り個々の学生が実力を付けて行くことを望んで応えてゆきたい。</p>	<p>〔講義計画〕 先ず、発音の基礎をじっくりと学ぶ。これを身につけるにはかなりの時間が必要である。ついでフランス語ではことに重要な動詞の活用を、直説法を中心として学ぶ。命令法・分子法も習得し、易しい文章の読み書きの基本を体得する。ついで条件法・接続法を学ぶ。前置詞も理解できるようになっているので時には学者や作家の書いた名文にも接する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 前期末試験と学年末試験の成績が、成績評価の上で重要な部分を占めることはいままでもないが、出席率をよくすることは実力をつける上からも大切である。口頭試験・小テスト等の成績をも加えた総合評価がなされる。</p>	<p>〔参考文献〕 田島宏編『フランス語 話す』（白水社）</p>			
<p>〔教科書〕 京都大学フランス語教室編『新初等フランス語教本《文法編》』（白水社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	03	通 期	2単位	オリヴィエ ビルマン Olivier Birmann
<p>〔講義概要・学習目標〕 フランス語が使われている社会で積極的にコミュニケーションに参加できる能力の養成を目標にしています。</p> <p>使用するビデオ教材（『ALPHABETIX』）は、日本人の初心者を対象にしたフランス語コミュニケーション教材です。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p><前期>自分について述べる／挨拶する 人を紹介する 買い物をする／評価する どこかへ行く／注文する 物や人を描写する／評価する等々</p> <p><後期>買い物をする／提案する／拒否する 自分について述べる／人を紹介する／評価する 提案する／承諾する／拒否する／執拗に求める／ 評価する 電話する／情報を求める等々</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 成績評価は、つぎの3つの合計により与えられます。 ① 出席 ② 提出物 ③ 試験</p>	<p>〔参考文献〕 『東京ーパリ、フランス語の旅』、著者：藤田裕二、藤田知子、S.Gillet、駿河台出版社、1997 『フランス語がわかる』、著者：曾我祐典、白水社、1995 『コレクション フランス語 [3] 文法』、著者：西村牧夫、曾我祐典、白水社、1990</p>			
<p>〔教科書〕 『ALPHABETIX』（ビデオ教材） 著者： Patrice Leroy, Adriana Rico-Yokoyama 発行：日仏出版センター 発売元：三修社、2000</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	04	通 期	2 単位	本 多 雄一郎
【講義概要・学習目標】 本講義では、フランス語の基礎的な文法を学んでいくが、それと同時に口頭による訓練も重視し、音読を通して文のリズムに慣れるように練習する。 フランス語は論理的で明解な構造を有するために、国際語として重要な地位を占めており、ヨーロッパ統合の流れの中で今後もその有用性を保ち続けるでしょう。フランス語の初歩を学ぶばかりにあってもそのような言語の特性が感じられれば幸いである。 みゆさんは、おそらく同じスタートラインに立ち、共に第一歩を踏み出すことにはなるわけですから、新鮮な気持ちで互いに失敬の取りに取り組んで下さい。	【講義計画】 前期：4月中は主に発音練習やツブリの読み方を学び、それと並行して、あいさつや基本的な会話表現を覚えて発音やリズムの感覚を養成する。 5月以降、フランス語の動詞の活用を中心に文法の各項目の説明、そしてひきつづき、口頭での訓練も行なう。 後期：動詞の過去形・未来形など様々な講義を学んでいく。			
【成績評価の方法】 前・後期試験の成績と授業中の平常点で総合評価する。	【参考文献】			
【教科書】 瀬戸秀一他著『街かどのフランス語』朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	05	通 期	2 単位	ロー・ヤマサキ・アニー
【講義概要・学習目標】 ×(+)のテキストを言ったり、文法・動詞活用・発音などをチェックし上で簡単な表現が出来るように口頭や筆記の練習をする。	【講義計画】 前期：指定のテキストの第1章から第10章までです。 後期：指定のテキストの第11章から第20章までです。			
【成績評価の方法】 出席、平常点と期末試験で評価します。毎言語小テストや小レポートも行ないます。	【参考文献】 P=ロー・ヤマサキ：『フランス語のファイル』 (自家出版)			
【教科書】 P=ロー・ヤマサキ：『Arrangements』 (自家出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	06	通 期	2 単位	ロー・ヤマサキ・アニー
フランス語 I b	06	通 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 発音と文法の基礎を身につけたから コミュニケーションに役がる基本的な表現を 使った文章を覚えて作り作ったりします。	【講義計画】 前期：指定のテキストの第1章から第10章まで を行います。 後期：指定のテキストの第11章から第20章まで を行います。			
【成績評価の方法】 出席、平常点と期末試験で評価します。 毎週小テストと小レポートも行っています。	【参考文献】			
【教科書】 ロー・ヤマサキ： <u>Syntaxe en paroles</u> (自家出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I b	01 02	通 期 通 期	2 単位 2 単位	一ノ瀬 真 美
【講義概要・学習目標】 はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、初級文法読本を用いて、簡単な文を読みながら一年間でフランス語の基礎をしっかりと身に付けることを目標としています。授業ではテキストを読んで理解するだけでなく、テープを活用して耳と口を使ってもフランス語になじみ、また、学んだ文法事項についてはかならず応用練習をしますので、実習のつもり極的な姿勢で授業に臨むことを期待します。理解できないことは授業中に質問してその場で解決しましょう。なお、辞書はかならず持参すること。	【講義計画】 最初の授業ではフランス語の発音練習をおこない、その後は以下に示す文法事項をテキストに出てくる順で習得していきます。 1. 名詞の性と数；不定冠詞；定冠詞；部分冠詞 2. être, avoir, -er動詞, -ir動詞, その他の主な動詞の直説法現在 3. 否定形；命令形；疑問文 4. 形容詞の一致；指示形容詞；疑問形容詞；所有形容詞 5. 前置詞 à, deと定冠詞の結合 6. 補語人称代名詞；人称代名詞強勢形；関係代名詞 7. 代名動詞；非人称動詞 8. 複合過去；半過去；大過去；単純未来；条件法；接続法			
【成績評価の方法】 前期試験と学年末試験で評価します。（学年末試験の方を重視。） なお、外国語の習得には積み重ねが大切なので出席状況の悪いものは試験を受ける資格が無くなります。	【参考文献】 辞書については最初の授業で指示します。			
【教科書】 戸板俊敬、斉藤広信、セルジュ・ジュンタ 共著 「オ・タブロー <改訂版>」（第三書房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I b	03 05	通 期 通 期	2 単位 2 単位	セシル モレル Cecile Morel
【講義概要・学習目標】 フランス語会話	【講義計画】 生きたフランス語を身につける			
【成績評価の方法】 出席・小テスト・授業参加	【参考文献】			
【教科書】 ALPHABETIX 日仏出版センター 著者: PATRICE LEROY 発売元: 三修社 ADRIANA RICO YOKOYAMA				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I b	04	通 期	2 単位	本 多 雄 一 郎
【講義概要・学習目標】 本講義では、フランス語の「話す」「聞く」という面に重点を置き、ダイナミック教材を並用しながら、12週による会話表現の練習を段階的に行っていく。テキストには易しい日常表現が紹介されているのでそれに沿って表現能力を養っていく。また、フランス語の能力を判定するものとして仏語検定が実施されており、それを一つの目標とすることも語学の習得の上でモチベーションと取りえるので、教材に検定の問題をとりいれて紹介する機会をつくりたい。	【講義計画】 前期: 最初は発声・発音の訓練を行い、その後は自己紹介やラゲイオを利用したの基本表現などを順次覚えていく。 後期: 前期にひきついで自己表現や過去・未来の表現を学んでいく。			
【成績評価の方法】 前・後期試験の成績と授業中の平常点で総合評価する。	【参考文献】			
【教科書】 瀬戸彦一他著『街かどのフランス語』朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語 I a	01 02	通 期 通 期	2 単位 2 単位	フェリペ カルバホ
[講義概要・学習目標] この授業では、基礎会話を中心に、スペイン語の基本的な文法を修得することに重点を置く。従って動詞の直接法の用法や、命令法などは、特に重視しておく必要がある。教科書のスペイン語を録音したカセットテープがあるので、参考として併用されたし。	[講義計画] 易しい会話のために、必要な発音と文法を学ぶ。教科書の第一課から第十九課迄履習予定である。主に規則動詞と不規則動詞の直接法である。後半では、特に動詞の過去と未来、比較級と最上級等を重点的に行なう。毎回、スペイン語作文の宿題あり。			
[成績評価の方法] 試験と授業中の態度応答、宿題、出席で決める。	[参考文献] 授業で紹介			
[教科書] 著 フェリペ・カルバホ 『HABLAMOS ESPAÑOL I』 大盛堂書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語 I a スペイン語 I a スペイン語 I b スペイン語 I b	03 05 01 02	通 期 通 期 通 期 通 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	沖 原 雅 美
[講義概要・学習目標] 1) スペイン語とはどんな言語か 2) スペイン語が使われるのはどんな地域か 3) 自分自身の事を、どのようにすればスペイン語で表現できるか 4) 効果的な語学学習をどのように行うか 当科目では、これらのテーマへの基礎的なアプローチを試みる。学生のスキルとしては、日常会話の聞き取り、および基本動詞に注目した日常会話文の作文と発話ができることを目標とする。文法事項や単語の丸暗記ではなく、辞書やノートなどの道具を利用する技術を習得することを重視する。 世界のいろいろな情報は、今マスメディアを通じて日本語で簡単に入手できるようになった。しかし、ネイティブ・スピーカーと彼らの言葉でコミュニケーションをする時ほど世界の大きさを体感することはないであろう。スペイン語の世界は実に広く、奥深い。地道な努力の向こうに、真の感動が待っているであろう。	[講義計画] 一般に、スペイン語初級文法と言われている項目のうち、主に直説法を用いた文を扱う。聞き取り、基礎文法と基本語彙を用いた作文、応用教材としての教科書読解を3つの柱とする。 <u>前期</u> 1) 聞き取り・・・単語レベルの聞き取り 2) 基礎文法と作文・・・単純な構成の文をたくさん作る 3) 教科書読解・・・自己紹介、日常生活について <u>後期</u> 1) 聞き取り・・・句レベルの聞き取り 2) 基礎文法と作文・・・たくさんの文を文章として構成できるようにする 3) 教科書読解・・・文化習慣について			
[成績評価の方法] 1) 参加への意欲、2) 参加態度、3) 努力の結果としての定期試験の得点 以上による総合評価	[参考文献] 辞書は、 敏直『プログレッシブ スペイン語辞典』小学館 宮城昇『スペイン語ミニ辞典』白水社 のいずれかを用意のこと。			
[教科書] 木村琢也著『スペイン語へようこそ!』同学社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語 I a	0 4	通 期	2 単位	松 平 マリア
スペイン語 I b	0 3	通 期	2 単位	
スペイン語 I b	0 4	通 期	2 単位	
スペイン語 I b	0 5	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
この講義の目的はスペイン語の文法を運用しながら日常会話でよく使われる表現を覚えることです。この目標に達するためには先生がそれぞれ文法のテーマの応用に当たる日常会話の例を学生に配ります。毎週それぞれの会話を勉強して、必要がある時スペイン、メキシコ、アルゼンチンのスペイン語の特徴についても説明します。	授業は二つの部分に分けられています：1) 先生が配った会話の内容を日本語に訳しながら単語と表現の使い方について説明します（必要があれば復習として文法の説明も行ないます）2) 会話の学習。学生は勉強した表現を使いながら中間達と話します。			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
評価は春学期と秋学期のそれぞれの試験により、または学生の授業中の参加により行なわれます。				
[教科書]				
Primer encuentro con el español, Katsumi Sasaki, Geirin-shobo.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 I a	0 1	通 期	2 単位	武 田 好
イタリア語 I a	0 4	通 期	2 単位	
イタリア語 I b	0 1	通 期	2 単位	
イタリア語 I b	0 4	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
イタリア語の発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、授業には積極的に参加して、耳と目を口をフルに使ってほしい。一年間で基本語彙と初級文法を習得することを目標とするが、「文法力」と「話す力、聞く力」とが常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとるため、学生諸君自身の意見発表や自己の表現力を問う場面が多くなると考えてほしい。イタリア語の構造を理解しながら、その場で人間相手に用いることで、より一層の力が定着を図る。また同時に、その言葉が使われている状況を考えることによって「イタリア文化」の輪郭なりとも学習していこう。	【前期】自分のことを話す 1. イタリア語のイントネーション、性数の概念 2. 規則動詞、名詞、形容詞 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習 【後期】相手にたずねる 1. 不規則動詞、補助動詞 2. 目的語人称代名詞 3. 近過去の働き			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
臨時試験、小テスト、及び授業中の演習結果から受講生各個人の能力を総合的に判断して決定する。	授業には必ず小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。			
[教科書]				
武田好・横山千里著 『Andiamo in Italia! (アンディアーモ・イン・イタリア)』 南欧図書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 I a イタリア語 I a イタリア語 I b イタリア語 I b	0 2 0 5 0 2 0 5	通 期 通 期 通 期 通 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	和栗 珠里
[講義概要・学習目標]	<p>イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目を口をフルに使ってほしい。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できるのであって、その国の文化を理解せずに言葉は学べない。授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。一年間で基本語彙と初級文法を習得することを目標とするが、文法力が話す力、聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。授業の進行は、なるべく本学のイタリア語 I の授業担当者の協議によって、足並みを揃える予定である。</p>			
[成績評価の方法]	<p>平常点。試験は授業中に数回行う。受講生各個の能力を総合的に判断して判定する。</p>			
[教科書]	<p>武田好・横山千里著 『Andiamo in Italia! (アンディアーモ・イン・イタリア)』 南欧図書</p>			
	<p>[講義計画]</p> <p>【前期】 自分のことを話す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イタリア語のイントネーション、性数の概念 2. 規則動詞、名詞、形容詞 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習 <p>【後期】 相手にたずねる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不規則動詞、補助動詞 2. 目的語人称代名詞 3. 近過去の働き 4. 再帰動詞 			
	<p>[参考文献]</p> <p>授業には小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 I a イタリア語 I a イタリア語 I b イタリア語 I b	0 3 0 6 0 3 0 6	通 期 通 期 通 期 通 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	曙 絵里
[講義概要・学習目標]	<p>イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目を口をフルに使ってほしい。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できるのであって、その国の文化を理解せずに言葉は学べない。授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。一年間で基本語彙と初級文法を習得することを目標とするが、文法力が話す力、聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。授業の進行は、なるべく本学のイタリア語 I の授業担当者の協議によって、足並みを揃える予定である。</p>			
[成績評価の方法]	<p>平常点。試験は授業中に数回行う。受講生各個の能力を総合的に判断して判定し、最終評価は担当者の協議によって決定する。</p>			
[教科書]	<p>武田好・横山千里著 『Andiamo in Italia! (アンディアーモ・イン・イタリア)』 南欧図書</p>			
	<p>[講義計画]</p> <p>【前期】 自分のことを話す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イタリア語のイントネーション、性数の概念 2. 規則動詞、名詞、形容詞 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習 <p>【後期】 相手にたずねる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不規則動詞、補助動詞 2. 目的語人称代名詞 3. 近過去の働き 			
	<p>[参考文献]</p> <p>授業には小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語 I a		通 期	2単位	国 松 夏 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>これまでロシア語を見たり聞いたりしたことがありますか？ おそらく多くの皆さんにとって、そもそもロシア文字が未知のものでしょう。ところがこの「ロシア文字一覧表」は英語26文字を「アルファベット」と呼ぶのと同様に「アルファベット」なのです。ただし、より正確には、つまりロシア語風には「アルファヴィート」であり、33文字あります。</p> <p>英語より7文字多いだけのロシア文字とそれらが表す音（やはり独特の音がいろいろあります）を練習して覚えることから始めます。</p> <p>そして、初級の基本的文法事項を何とか一通り学習して、辞書を使いこなせるようにするのが目標ですが、それよりはむしろ感覚的にロシア語に慣れることが肝要です。教室でも家でも恥ずかしがらずに、大きな声で発音練習しましょう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>教科書は全部で10課あります。単純に計算すると、2回の講義につき1課、前期5課、後期5課で1冊修了することになります。しかし、なかなか計算通りいかないのが、教室での語学学習です。適度に緩急をつけながら、重要ところはじっくりと、とばせるところはとばしていきます。</p> <p>一つだけ、予め注意しておきたいのは、教科書には書き込みをしないこと。B5判の余白の多い教科書で、つい「読みカナ」をふったり、練習問題の解答を書き込んだりしたくなるのですが、それはノートにすること。教科書をきれいなままにしておき、常に「練習」できるようにしておくことも、意外と語学上達早道なのです。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を何よりも重視します。とにかく、たとえ予習が間に合わなくともめげずに出てきてロシア語に触れること。その上で、前期末と学年末の試験で総合的に評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>辞書に関しては、最初の時間にいろいろ紹介します。といっても、英語やドイツ語、フランス語の辞書に比べても数は限られており、選択の幅は狭くなっています。</p> <p>その他、「参考文献」は、「新旧ロシア情報」も含めて随時授業中に紹介して行きます。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>諫早勇一・服部文昭・大平陽一著『セメスターのロシア語』 白水社刊</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語 I b		通 期	2単位	杉 野 ゆ り
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ロシアは隣国でありながら、日本にとってはまだまだ未知の大国です。混迷を極めているロシアの社会情勢は次の段階へ前進するための豊かな可能性を秘めています。芸術、スポーツ、政治、経済・・・日露関係のどの分野をとっても未開拓の仕事があります。日本とロシアの研究と交流で先達者になる夢を描いてロシア語の勉強を始めませんか。チャレンジ精神のある学生の参加を期待します。</p> <p>ロシア語はやりがいと味わいのある言語です。みなさんが知っているラテン文字とは違ったロシア文字の形を楽しみながら、発音を覚え、次第にロシア語文法奥深く入っていきましょう。積極的に授業に参加して、五感をフルに使いながら、根気強く授業についてきてください。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>この授業では文法と作文を中心に勉強します。教科書は24課からなります。前期で14課、後期で残り10課の予定です。</p> <p>初級文法の中でもっとも基本的なことについて書かれていますので、復習予習をしっかりとしながら教科書に書かれていることはすべて覚えるつもりで付いてきてください。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点（出席回数、小テストなど）と前後期の定期試験の点数によって評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>露和辞典必携</p>			
<p>[教科書]</p> <p>黒田 龍之助著 「ロシア語文法への旅」 (大学書林)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	0 1	通 期	2 単位	芦 田 茂 幸
中国語 I a	0 2	通 期	2 単位	
中国語 I b	0 1	通 期	2 単位	
中国語 I b	0 2	通 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】	【講義計画】			
<p>この地球上では5人に1人が中国語を話している。隣国であるということも含めると、我々日本人にとって中国語を学ぶ意義はとて大きいし、学習希望者も年々増加傾向にある。しかし困ったことは同じ漢字を使っているから、英語と比べてかなり学び易いだろうという錯覚から受講を希望する学生もかなりいるという現実である。中国語学習の過程での目標の第一は、日本人が漢字の読みを一つ一つ覚えたのと同じように、中国語独特のイントネーションとともに、漢字一字一語の固有の発音を会得することである。日本語の漢字の読みを覚えるのに少なくとも小学6年間を要したことを思い出しもらいたい。</p> <p>確かに補助的に使用するローマ字はあるが、それはあくまで補助であって、主ではない。「英語はだめだったが、中国語なら…」という考えは通用しないのである。</p> <p>尚、テキストはクラス01、02何れも同一テキストを使用し、a b共通、通年で使用する。</p>	<p>授業の都合上、前期と後期に分ける。</p> <p><前期> 主として声調・発音に重点を置き、簡単な日常会話から始めるが、中国人の日常生活や風習にも言及し、中国語を親しみ易いものにした。 テキスト1課～10課</p> <p><後期> 日常会話を中心に、暗誦に重点を置き、日常生活における基本的な語彙を習得し、同時に、読解、文法、作文を通じて基礎的構文を把握し中国語Ⅱへの足掛かりとしたい。 テキスト11課～20課</p>			
【成績評価の方法】	【参考文献】			
<p>前期・後期とも2課毎に小テストをそれぞれ5回行い、その平均点に平常成績(暗誦、書き取り、及び出席状況)を加味して総合評価を行う。</p>	<p>香坂順一編著「簡約現代中国語辞典」B6変型判[光生館]3,500円 蘇文山監修「アクセス中日辞典」四六変型判[三修社]3,200円</p>			
【教科書】				
<p>梶本英雄・陳文芷編著「中国語を学びましょう」(朝日出版社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	0 3	通 期	2 単位	オウ キョウ キョウ 汪 暁 京
中国語 I a	0 4	通 期	2 単位	
中国語 I b	0 3	通 期	2 単位	
中国語 I b	0 4	通 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】	【講義計画】			
<p>初めての中国語、何と言っても発音のマスターが一番重要だ。拼音(ローマ字による発音表記)を頼りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚えること。その次、最も基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の文章を習得。一年間の勉強を通して、「耳」と「口」が中国語に慣れるよう努力すること。</p> <p>また、中国語の勉強と共に、中国の文化、社会、風俗、習慣などについて紹介する。</p>	<p><前期> 導入 発音段階 ①拼音(ローマ字による発音表記) ②四声(中国語のイントネーション) ③総合練習 本文の勉強 第1課～第8課 2コマ一課のペースで行う (文法と言葉の使い方の説明、本文の説明、並びに朗読、翻訳、練習)</p> <p><後期> 本文 第9課～第18課 前期と同じ</p>			
【成績評価の方法】	【参考文献】			
<p>定期試験、平常点、出席などによる総合評価。</p>	<p>「デイリーコンサイス中日辞典」 杉本達夫・牧田英二・古屋昭弘[共編] (三省堂 1998)</p>			
【教科書】				
<p>黒坂満輝・楊暁安 著「ビッグバン中国語」 (CD付き) (同学社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	0 5	通 期	2 単位	カ 何 フ カ 嘉 涪 嘉
中国語 I a	0 6	通 期	2 単位	
中国語 I b	0 5	通 期	2 単位	
中国語 I b	0 6	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
近年国際化が進み中国が目される中で中国語を身につけたいと意欲に燃えている学生が増えていると感じている。本講義は初心者を対象に一年間を通して「聞く、話す、読む、書く」の四つの基本技能をともに発展させ初級レベルに達成させることを目標とする。CDを繰り返し聞き、発音を完全にマスターすることが大切である。また学生諸君の積極的な参加を望み、楽しく無理なく進めたいと思う。	まずはしっかり発音できるように、最初の8回をあてる計画である。前期は第6課まで進める予定で後期は全教科書を終える。映画、音楽などを通して中国の文化、風俗習慣の紹介も行いたい。			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
期末試験の結果に出席状況と平常点（受講の積極性、小テスト）を加味して総合評価する。	香坂純一編著「簡約 現代中国語辞典」（光生館）			
[教科書]				
相原茂 陳淑梅 飯田敦子 「一年生のころ」（朝日出版社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	0 7	通 期	2 単位	サ コウ 左 虹
中国語 I a	0 8	通 期	2 単位	
中国語 I b	0 7	通 期	2 単位	
中国語 I b	0 8	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
近年、中国の経済発展、及び香港とマカオの返還、中国語を学ぼうとする人が急速に増えている。語学の勉強は一般の授業と違い、単なる講義を聴くだけではなく、真似したり、考えたり、口にしたりなどの訓練が必要とされる。この一年間の勉強を通じて、ローマ字方式によって漢語の発音を習得し、基礎となる文法と文型を学び、語学における基本技能の「聞く」「話す」「読む」「書く」といったバランスのとれた表現力を身につけようと講義を進めたいと考えている。	前期において、基礎となるピンインの発音を重点にし、簡単な文法を習得に従って日常会話の能力を養う。 前期の予定：発音編～第8課 後期において、前期で学んだ基礎を元にし、文法と文型を取り入れ、簡単な作文を読む能力と書く能力を養う。 後期の予定：第9課～第20課 前期と後期において、中国語をもっと理解するようにビデオなどで中国の風俗習慣や時事中国や音楽及び映画鑑賞なども積極的に取り入れたいと考えている。			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
前後期の試験のほか、出席率や小テストを平常成績として総合評価する	「やさしい入門中国語」 丁 秀山・坂井ひとみ 著 金星堂			
[教科書]				
「実用中国語」基礎編 王 延平 著				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	09	通 期	2単位	ジョ ヨクギ ヨク 徐 国 玉
中国語 I a	10	通 期	2単位	
中国語 I b	09	通 期	2単位	
中国語 I b	10	通 期	2単位	
[講義概要・学習目標] この授業では聞く、話すという能力に重点を置きます。中国語のピンインから始めて、基本的な語彙や文法事項を習得して行きます。一年間で中国語学習の堅い土台を作ることがこの授業の目標です。	[講義計画] 【前期】第1課～第10課 【後期】第11課～第20課			
[成績評価の方法] 出席状況、授業態度、平素の小テストの評点または前期、後期のテストの評点で総合的に評価します。	[参考文献] 『精選日中・日中辞典』（東方書店）			
[教科書] 『フレッシュ大学中国語』（徐国玉、山田 忠司著 出版予定）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	11	通 期	2単位	チン セイ コク 陳 靖 国
中国語 I a	12	通 期	2単位	
中国語 I b	11	通 期	2単位	
中国語 I b	12	通 期	2単位	
[講義概要・学習目標] 概要：この授業を通して、実用的な中国語を覚えましょう。きれいな発音、的確な表現、そして、複雑な専門用語を一切省いた文法。 目標：中国語を覚える中で、中国を知る。	[講義計画] ＜前期＞ 概説：中国・日本/中国語・日本語の異同 発音 1～8課 ・拼音(アルファベット表記) ・四声(中国語のイントネーション) 本文講読・会話の練習 第1課～ ＜後期＞ 前期の続き			
[成績評価の方法] 定期試験と併せて、授業中練習、平常点、出席等による総合評価。	[参考文献] 『デイリーコンサイズ中日辞典』 杉本達夫・牧田英二・古屋昭弘 共編 (三省堂 1998)			
[教科書] 北京語言学院李培元・任運共著 《スタンダード中国語(上)》 中華書店 出版				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語 I a		通 期	2 単位	チョン ソンヒ 田 星 姫
[講義概要・学習目標] 大学で初めて朝鮮語を学ぶ人のための入門講座である。 このクラスでは、文字や発音、ごく簡単な日常表現、 必要最小限の文法事項など、朝鮮語の基礎を学ぶ。	[講義計画] 1 文字と発音 基本母音字と基本子音字 激音と濃音の子音字と合成母音字 2 パッチムの発音 3 発音時における音変化 4 用言の丁寧語尾（肯定形） 指定詞・存在詞・動詞・形容詞 5 用言の丁寧語尾（否定形） 指定詞・存在詞・動詞・形容詞 6 漢数詞と固有数詞 7 勧誘形 8 命令形 9 尊敬形 10 感嘆形 11 推量形 12 過去形など			
[成績評価の方法] 試験、出席、授業中の態度、課題への取り組みなどを総合的に評価する。	[参考文献] 油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館			
[教科書] 『韓国語入門』（印刷教材・田星姫著）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語 I b		通 期	2 単位	青 野 正 明
[講義概要・学習目標] この授業は朝鮮語の入門である。文字・発音や基礎的な文法を学び、簡単な文章の読解へと進みたい。 「朝鮮語 I b」では、文法と簡単な読み書きに重点を置いて、現代の韓国で使われている言葉を中心に学習する。北朝鮮で使われている言葉で韓国と異なるものについても、適宜紹介していく予定である。 隣国の言葉を全く知らないということは、よくよく考えてみれば奇妙なことではないか。今、私たちが朝鮮語を学ぶことは、自分たちの生き方としても非常に意義のあることだといえる。 1年間を終えた段階では、観光する際にも簡単な文章が読めるようになるだろう。	[講義計画] 前期：第1課～第15課 後期：第16課～第24課			
[成績評価の方法] 出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。	[参考文献] 辞書は授業で紹介する。			
[教科書] 高島淑郎『書いて覚える初級朝鮮語』白水社、1993年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語 I a		通 期	2 単位	有 川 康 二
【講義概要・学習目標】 大学の講義をノートを取りながら聴き、意見を述べ、教科書や参考書として専門書を読み、レポートを書く... 外国語でこれらの作業を行うには高度の外国語運用能力を必要とする。このクラスでは特に、大学の講義を受ける上で必要な日本語の読解力に焦点を絞って訓練を行う。	【講義計画】 内容に関する質疑応答を通して読解作業を行う。			
【成績評価の方法】 出席・筆記試験	【参考文献】 辞書を常時携帯すること。			
【教科書】 読解資料はこちらで用意する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語 I b		通 期	2 単位	友 沢 昭 江
【講義概要・学習目標】 この授業では、大学でのさまざまなコミュニケーションに必要な実践力を習得するために、主として「読む」、「書く」に加えて「自分の意見を発表する」ことも学びます。具体的には、新聞記事や短い論文、テレビ番組などの映像を材料に、それを理解し、要約を文章にし、批判を加えた自分の意見を発表するという活動を行います。	【講義計画】 授業の前半は主として新聞記事を中心に「読んで理解する」ことを中心に行います。そして後半は、やや長めの文章を読み、その文章に関して出される設問に答えたり、意見を口頭で発表したりします。時事的な問題については、テレビ番組などの映像資料も使う予定です。			
【成績評価の方法】 授業で学んだ内容に関連した課題を提出すること、随時行う小テスト（一学期に数回）、各学期末の試験の結果を総合的に判断して成績を出します。もちろん出席は重要な要素です。	【参考文献】 特になし。辞書は必ず持参すること。			
【教科書】 教員が準備しますので、特に指定はしません。ただし、自分に一番使いやすい辞書は毎回必ず持参してください。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱ a	01	通 期	2単位	高 田 里 恵 子
[講義概要・学習目標] 大人になってから学んだ語学を「話せる語学」にするためには、「書く」練習が欠かせない。 この授業は、ごく簡単なドイツ語作文をし、その文を繰り返し口に出して読んでみるという練習しながら、会話力を伸ばすことを目標とする。 授業には、配布したプリントの他、独和辞典と、初級の授業のときに使用した文法の教科書(何でもよい)を必ずもってくること。	[講義計画] 1. ドイツ語を思い出そう！ ① 文法編 ② 会話編 2. 基本の動詞だけで切り抜ける 3. 助動詞を使って気持ちを表現する 4. 接続法で表現の幅を広げる			
[成績評価の方法] 前期と後期の最後に試験を行なう。成績(合否)はⅡbの担当の教員と相談のうえ決定される。また平常点も重視するが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味している。授業中の態度や勉学意欲を正当に評価できるように、授業のやり方や内容を工夫するつもりである。	[参考文献] 授業中に指示する。			
[教科書] 教科書は使用しない。プリントを配布するので失わないこと。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱ a	02	通 期	2単位	田 中 秀 穂
[講義概要・学習目標] 初級ドイツ語の授業で身につけた知識をもとに、自分でドイツ語の文を作ってみよう。文法事項ごとに構成された明快なテキストを使用し、やさしく基本的な短いドイツ語を書き表わせるようになることを目標とする。 練習問題には、必要な単語やヒントが添えられており、和独辞典は不要であるが、独和辞典は必ず持ってくること。 文法事項などで忘れたことや分からないことがあれば、そのつど説明するので、表現してみようとする姿勢を大切に積極的に参加してほしい。	[講義計画] 《前期》 動詞の現在人称変化、定冠詞と不定冠詞、冠詞と名詞の格変化、冠詞類、前置詞、動詞の過去人称変化など 《後期》 完了時称、形容詞、受動、zu 不定詞、比較級と最高級、語法の助動詞、関係代名詞、再帰動詞、接続法など			
[成績評価の方法] 前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。詳細は、Ⅰa(初級文法)のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	[参考文献]			
[教科書] 著 者： 大岩 信太郎 書 名： はじめての独作文(改訂版) 発行所： 朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱa	03	通 期	2単位	竹 田 和 子
【講義概要・学習目標】 このクラスでは初級文法でならった文法知識を生かし、ドイツ語で表現する力をさらに伸ばすことを目指す。教科書は重要な文法項目を復習しながら無理なくドイツ語を理解し、表現できるように作られている。 授業のために和独辞典を買う必要はない。ただし外国語の習得には反復練習と暗記という地道な努力が必要である。予習、復習を欠かさず、授業には積極的に参加してください。	【講義計画】 1 動詞 2 名詞 3 冠詞 4 分離動詞 5 助動詞 6 完了形 7 過去形 8 前置詞 9 比較表現			
【成績評価の方法】 前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。	【参考文献】			
【教科書】 著者：Angela Braun, Antje Seidel, Robert F. Witkamp, 和泉雅人 書名：改訂版・あつ、そう！ 発行所：同学社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱb	01	通 期	2単位	坂 昌 樹
【講義概要・学習目標】 できるだけドイツ語を楽しんでみたいと思います。テキストは指定せず、毎回教員が用意します。ですから原則として、この授業に予習はいりません。ポップスなどを聞いたり、インターネットなどを利用してドイツ語を学ぶことができれば良いと考えています。それでも学習の重点は、ドイツ語の文章を読み解くことにあります。その際、ドイツ語で習ったことの復習だけでなく、ドイツの人々の感情表現を少しでも理解できるようところがたいと思います。わからないことがあったら何でも質問してください。わからないことがあったり、あるいはドイツ語で習ったことを忘れてしまっても、そのことを低く評価したりはしません。低く評価するのは、それらを知らないままにしておく態度です。積極的な授業参加を望みます。	【講義計画】 ドイツ語で歌われているフォークソング、ロック、童謡などを聞きます。			
【成績評価の方法】 毎回の授業で出席をとり、前期と後期の終わりに試験を行います。また、授業への積極的な参加も評価されます。ただし全体の成績評価は、IIaを担当する教師と相談して総合的に決定します。	【参考文献】 独和辞典とドイツ語Ia(文法)の教科書を毎回持参してください。			
【教科書】 なし。毎回のテキストは教員が用意します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱb	02	通 期	2単位	山 崎 充 彦
[講義概要・学習目標] 1 回生で学んだ文法事項を復習しながら、やさしい文章を読み解く力を養います。おぼろげになっている文法知識をさましながら、一步一步進めて行きます。初歩的なことがらでも、分からないことは必ず質問して下さい。 ドイツ語の文法は、最初とはつきにくいですが、非常に論理的な構造になっているので、パズルを解き明かすような気持ちで読んで行くと面白くなっていくはず。英語とは違う外国語を学ぶことで、物事を複数の側面から判断する能力を養って下さい。日本語・英語以外のチャンネルを持つことで、日本語や英語で得られる情報を絶対視しない柔軟な思考方法を身につけて欲しいと思います。	[講義計画] 授業内容や進度は、原則としてテキスト通り			
[成績評価の方法] 前期と後期の試験によります。成績評価はⅡaとⅡbの担当者が相談し、総合的に判断して決められます。	[参考文献] 独和辞典必携			
[教科書] Randolf Jessl, 石井寿子, 『時事ドイツ語 <00年トピックス>』 "Neuigkeiten aus Deutschland '00" 朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱb	03	通 期	2単位	村 田 佳 隆
[講義概要・学習目標] とにかく復習から始めよう。一年次で学ぶ内容は、おそらく消化不良になっているであろうから、もう一度der, des, dem, denからしっかりと整理しなおすことを最初の目標にする。 毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。	[講義計画]			
[成績評価の方法] 前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。詳細はⅡa（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	[参考文献]			
[教科書] 新田、Graeb-Könneker 「二つの世界のはざままで—やさしい文法とテキスト」 郁文堂				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱa	01	通 期	2単位	一ノ瀬 真美
[講義概要・学習目標] <p>すでにフランス語Ⅰでフランス語の初歩を学んだ学生を対象に、まとまった量のやさしい読みものを読みながら、フランス語になじみ、より深い読解力を養うことを目標とする授業です。訳読を中心としたものになりますが、必要に応じて、随時、文法事項のまとめやすでに学んだ基礎事項の復習をおこないます。また、テキストを声に出して読むことで、フランス語の発音やリズムが身に付くでしょう。なお、辞書はかならず持参すること。</p>	[講義計画] <p><前期> 26頁まで。 <後期> 27頁から43頁まで。</p>			
[成績評価の方法] <p>前期試験と学年末試験によって評価します。尚、出席の悪い人は試験を受ける資格が無くなります。</p>	[参考文献]			
[教科書] <p>Sempé et Gosciny (著) 「休み時間のニコラ」 (駿河台出版社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱa	02	通 期	2単位	オリヴィエ ビルマン Olivier Birmann
[講義概要・学習目標] <p>フランス語Ⅱa 実際に「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」作業を行い、前年度に学んだことを見直しながら知識を広め、理解を深めます。道具は使ってはじめて手になじみ、改善すべき点も明らかになります。フランス語の文法感覚も、フランス語をどんどん使うことによって、磨かれていくはずで なお教科書と運動して、フランス語Ⅱaクラス用の聞きとり、作文、読書の練習のプリントを作ります。</p>	[講義計画] <p><前期> 自分について述べる、人を紹介する、評価する、提案する、承諾する、拒否する、執拗に求める、電話をする、情報を求める、会う約束をする 等々 <後期> 過去の物語、出来事の展開を話す、出来事の背景について説明する、事柄を確かでないこととして伝える、事柄を確実なこととして伝える 等々</p>			
[成績評価の方法] <p>成績評価は、つぎの3つの合計により与えられます。 ① 出席 ② 提出物 ③ 試験</p>	[参考文献] <p>『東京一بار、フランス語の旅』、著者：藤田裕二、藤田知子、S.Gillet、駿河台出版社、1997 『フランス語がわかる』、著者：曾我祐典、白水社、1995 『コレクション フランス語 [3] 文法』、著者：西村牧夫、曾我祐典、白水社、1990</p>			
[教科書] <p>『ALPHABETIX』 著者： Patrice Leroy, Adriana Rico-Yokoyama 発行：日仏出版センター 発売元：三修社、2000</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱ a	03	通 期	2単位	ロー・ヤマサキ・アニー
フランス語Ⅱ b	03	通 期	2単位	
【講義概要・学習目標】 Lecture et traduction mot à mot, diction, vérification des points de grammaire importants, vérification des conjugaisons, quiz du professeur et interview des étudiants. Mémorisation du texte.	【講義計画】 前期：指定のテキストの第1章から第10章までを学びます。 後期：指定のテキストの第11章から第20章までを学びます。			
【成績評価の方法】 出席、平常点と期末言文、読解言評価します。 毎週の小テストや小レポートを行います。	【参考文献】			
【教科書】 ロー・ヤマサキ： <u>Choses de la vie</u> (自家出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱ b	01	通 期	2単位	本 多 雄一郎
【講義概要・学習目標】 本講義では、フランス語の文法内容を再度確認・復習しながら、基本的な会話表現を習得することが目標です。そのため、テキストで標榜した場面での適切な表現を学習し、テープやCDでの聞きとりなども行ない、「聞き」「話し」「書く」という能力を養成していきたい。	【講義計画】 前・後期を通じて、テキストの内容に沿って基本表現を反復練習して、自己表現や、日常生活における表現などを学んでいく。			
【成績評価の方法】 前・後期試験の成績と平常点で総合評価する。	【参考文献】			
【教科書】 佐藤康著『コミュニケーションのための44のユニット』 駿河台出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱb	02	通 期	2単位	セシル モレル Ce c i leMore l
【講義概要・学習目標】 フランス語会話	【講義計画】 生きたフランス語を身につける			
【成績評価の方法】 出席・小テスト、授業参加	【参考文献】			
【教科書】 ALPHABETIX 著者: PATRICE LEROY ADRIANA RILLO-YOKOYAMA BLM出版センター 発売元: 三修社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅱa	01 02	通 期 通 期	2単位 2単位	フェリペ カルバホ
【講義概要・学習目標】 【学習目標】 スペイン語Ⅰで学んだことを基盤として応用・発展を目指す。 【講義概要】 講義の最初の部分では、すでに習った文法を復習しながら、更に発展してスペイン語の文法の規則や表現を理解させるつもりである。 各学生は、授業にノートと筆記用具を持参すべし。	【講義計画】 スペイン語会話の為の知識としての語彙 実際に役立つスペイン語の習得のための表現方法を学ばせる予定である。 本書に謳うように、外国語の習得には、基本的な文法事項の把握とリ豊かな表現を可能にする為に、語彙を豊富にすることが重要だ。目、耳、口、手を充分に使ってスペイン語の学習に努めさせる。スペイン語の「書き取り」も毎回する予定である。			
【成績評価の方法】 試験と授業中の態度・応答・宿題、出席で決める。	【参考文献】 授業で紹介			
【教科書】 VENTANA al mundo hispánico 株式会社 芸林書房 著者 石崎 優子 フェリサ・レイ				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅱ a	03	通 期	2 単位	松 平 マリア
スペイン語Ⅱ b	03	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
この講義の目的はスペイン語の文法を運用しながら日常会話でよく使われる表現を覚えることです。この目標に達するためには先生がそれぞれ文法のテーマの応用に当たる日常会話の例を学生に配ります。動詞のいくつかの時制を勉強する予定です：点過去、線過去、未来系、過去未来、命令形と接続法現在を一年にわたってゆっくり勉強します。	授業は二つの部分に分けられています：1) 先生が配った会話の内容を日本語に訳しながら単語と表現の使い方について説明します（必要があれば復習として文法の説明も行ないます）2) 会話の学習。学生は勉強した表現を使いながら中間達と話します。			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
評価は春学期と秋学期のそれぞれの試験により、または学生の授業中の参加により行なわれます。				
[教科書]				
Somos Así I (EMC Publishing, Saint Paul, Minnesota) プリント配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅱ b	01 02	通 期 通 期	2 単位 2 単位	沖 原 雅 美
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
昨年度の授業で、スペイン語の特徴はだいたいつかんでいただいたと思う。今年度は、慣れるだけではなく、主体的にスペイン語の世界に飛び込み、基本事項を確実に習得してほしい。	前期 1) 1年次の復習と文法練習問題（直説法現在） 2) 直説法のさまざまな時制			
1) 1年次の復習、2) 聞き取り、3) 1年次の続きの文法説明、4) 教科書以外のスペイン語の文章の読解を行う。昨年度に比べて要求度が高くなるが、みなさんなら大丈夫だと思う。	後期 1) 複文構造 2) 接続法			
	読解教材は開講時に受講生の要望を聞いて決定する。小説、新聞やインターネットの記事など様々なソース、様々なテーマから、少しずつ取り上げたい。			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
1) 参加への意欲、2) 参加態度、3) 努力の結果としての定期試験の得点以上による総合評価	スペイン語をさらに学習したい人には、次の書を薦める。 辞書として、桑名一博他編『西和中辞典』小学館 文法書として、おかだたつお著『現代スペイン語講座』芸林書房 スペイン語圏を知る参考書として、『スペインを知る事典』『ラテンアメリカを知る事典』ともに平凡社			
[教科書]				
昨年使用した、福島教隆著『コミュニケーションのためのスペイン語』芸林書房を引き続き使用する。昨年この教科書を購入していない学生は、購入するように。 別途プリント教材を用意する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱ a	01 02 03	通 期 通 期 通 期	2単位 2単位 2単位	米 山 喜 晟
【講義概要・学習目標】 1. 一年次の文法の残りを、最後まで終了する。 2. 特に軽視されやすい、命令法、条件法、接続法の用法に習熟してもらう。 3. いろいろな種類の文章を読んでもらい、一通り学んだイタリア語文法の知識を確認しながら、読解力を身につける。		【講義計画】 [前期] 1. 文法を最後まで終了する。 2. 動詞の変化の記憶の徹底。 3. 簡単な文章の訳読練習。 [後期] 1. イタリア語文法の全体像の把握。各法の理解。 2. かなり複雑な文章の読解練習。		
【成績評価の方法】 平常に行う数回の小テストと期末の大テストの点数の総合評価。		【参考文献】 小学館「伊和中辞典」		
【教科書】 すでに所持している、一年次に使用した文法教科書。 武田好・横山千里著 「アンディアーモ・イン・イタリア」				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱ b	01 02	通 期 通 期	2単位 2単位	川村 デイリヨ クレメンティーナ
【講義概要・学習目標】 会話, 文法, 聞き取り.		【講義計画】		
【成績評価の方法】 出席, 学期末試験		【参考文献】		
【教科書】 プリント				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱb	03	通 期	2単位	鳥 居 正 雄
[講義概要・学習目標] Iで扱いきれなかった文法の残りを最後までやります。基本的な動詞の変化が十分に頭に入っていない諸君がかなりいるようなので、動詞の変化を中心に練習問題を使った演習をみっちりやります。会話も基本的には作文なので文章がひとりで作れるようになることを目標にします。語学はすべて継続することが大事なので毎時間必ず出席する必要があります。それで、出席したりしなかったりが目に余るような諸君には、こちらから出席辞退を要求することがあります。	[講義計画] 『前期』 文法説明を最後まで行います。 各課ごとに練習問題をして理解を完全なものにします。 動詞の変化を徹底的に反復して覚えてもらいます。 カンツォーネ、歌曲やオペラ等を鑑賞し、それらを通してイタリア的な感性に対する理解を養います。 『後期』 文章読解をしながら各法の使い方にたいする理解を深めます。 文章を音読しながら発音とアクセントの正確さを高めます。 映画を鑑賞し、それらを通してイタリア的な物の考え方に対する理解を深めてもらいます。			
[成績評価の方法] 単元毎の練習問題の提出と期末のテストとレポートの点数、それに授業中の問題に対する答えの出来ぐあいを総合して評価します。	[参考文献]			
[教科書] G. Battaglia, G. Varsi: Parole e immagini. Bonacci editore.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語Ⅱa		通 期	2単位	国 松 夏 紀
[講義概要・学習目標] 「ロシア語Ⅰa・Ⅰb」で、文字と発音を含めて、一通りの基礎文法を学んだ諸君を対象とし、ロシア語のいろいろな文章を読んできます。少し間が空いて、もう忘れたこともあるでしょうし、まだ充分学んでいなかったこともあるでしょう。それらを復習し、補いながら、こまめに辞書を引きつつ読んでいきましょう。それと同時に、テープなどで、音を聞き、自分でも精一杯声を出して滑らかに読めるように練習してください。 地道に努力を重ねると、ロシア語を通して、思わぬ豊かなロシア世界が眼前に開けることでしょう。	[講義計画] 教科書は「ロシア語Ⅱb」と共通の同じものです。「ロシア語Ⅱa」では、 <u>偶数番号の課</u> を読みます。（「ロシア語Ⅱb」では、奇数番号の課を読むことになります。）この教科書の「まえがき」にあるように「内容は笑い話、ロシアの地理、気候、料理、スポーツ、伝説、工芸、ジュエスチャー、日露交流史、短編小説などいろいろです」ので、楽しんで読んでいけるのではと考えています。 最初は一語一語確認しながら読みますが、調子が出てきたら、単語にこだわらず、どんどん文脈を追っていきます。「練習問題」を通じて、会話や作文の練習も加味します。			
[成績評価の方法] 必ず予習をして、出席すること。やむを得ず予習が間に合わなくとも、とにかく教室に出てくること。その「平常点」と、前期末・学年末の試験により、総合的に評価します。	[参考文献] 教科書巻末に「単語集」がついていますし、もう辞書も持っていると思いますが、最初の時間に改めて辞書に関して案内します。また、ロシア語からさらに広くロシア関係の話題も随時提供するとともに、「参考文献」も紹介するつもりです。			
[教科書] 笹尾道子・藤井悦子・杉山秀子・滝川ガリーナ著 『やさしいロシア語読本』 大学書林刊				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語Ⅱb		通 期	2単位	杉 野 ゆ り
[講義概要・学習目標] 前年度学んだ初級文法より詳しく体系的な文法を勉強しながら、読解力を付けるのが目的です。ロシアの気候、地理、料理、スポーツ・・・など様々なテーマの読み物と一緒に読んでいきましょう。しっかりと身に付いた読解力は会話と作文の場面に於いてもその真価を発揮してくれるはずです。 辞書を引いて怠りなく予習すること。一生懸命勉強すれば、ロシア語はあなたの生涯の友人となるでしょう。	[講義計画] 教科書は26課からなります。その中から奇数課を勉強します。			
[成績評価の方法] 平常点（出席回数、小テストなど）と前後期の定期試験の点数によって評価します。	[参考文献] 露和辞典必携			
[教科書] 笹尾 道子他編「やさしいロシア語読本」（大学書林）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱ a	01	通 期	2単位	芦 田 茂 幸
中国語Ⅱ b	01	通 期	2単位	
[講義概要・学習目標] 中国語Ⅰで会話文を通じて基礎的な中国語を修得し終えた後、更に一歩進めて、中国人の日常生活に関わる文章を対象にして、文化、生活、慣習、言葉の表現など様々な面での目覚ましい変化を読み取らせ、読解力を高め、朗読中心の反復練習を行い、練習問題に取り組み、聞き取りの力をも養い、将来活用出来るまでにもってゆきたい。またテキストを通じて中国及び中国人に親しみを覚えてくれれば幸甚である。 尚、テキストは同一テキストをa、b共通で使用する。既に中国語Ⅱを履修した学生も再度随意科目として履修出来るよう、テキストは毎年変えているので積極的に参加してほしい。 辞書は必ず購入しておくこと	[講義計画] 〈前期〉声調・発音を再確認し、1課に平均5講時を当て、暗誦中心に反復練習し、併せて中国語文法の基本的な構文を習得し、2課毎に小テストを行い、基礎を確実なものにしたい。 テキスト 1課～10課 〈後期〉テキストを通じて中国の現況にも目を向け、朗読中心の反復練習を行い、講読・作文を通じて基本的な文法を習得する。1課に平均4講時を当て、2課毎に小テストを行い、習得を一層確実なものにしたい。 テキスト 10課～18課			
[成績評価の方法] 前期5回・後期4回小テストを行い、その平均点に平常成績（朗読・作文・暗誦・書き取り、及び出席状況）を加味して総合評価を行う。	[参考文献] 香坂順一編著「簡約現代中国語辞典」B6変型判「光生館」3,500円 蘇 文山 監修「アクセス中日辞典」四六変型判「三修社」3,200円			
[教科書] 張 麗雄・張 芳枝 著 中級テキスト「好朋友读本」（金屋堂）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱ a 中国語Ⅱ b	0 2 0 2	通 期 通 期	2 単位 2 単位	カ 何 イ 為
[講義概要・学習目標] 一年の時に習ったものを復習しながら、新しく出現する文法事項、表現文型を学び、より高度な会話力と読解力を身につけることが目標。実際練習を中心に適宜文法等の説明を加える。	[講義計画] 原則的に半期はテキストの半分まで進み、一年間で一冊を修了する。			
[成績評価の方法] 試験の成績と平常点で総合評価する。	[参考文献] 「中国語辞書」 白帝社			
[教科書] 「話す中国語 北京編2」 董燕、遠藤光暁著 朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱ a 中国語Ⅱ b	0 3 0 3	通 期 通 期	2 単位 2 単位	カ 何 フ 涪 カ 嘉
[講義概要・学習目標] 中国語Ⅰで基本を学んだ学生を対象に会話などの総合的な能力を高めることを目指します。中国語は実は話し言葉と書き言葉の距離が非常に大きい言語です。教科書はあくまでも口語表現を主体としています。文章体にもすこし触れます。 また、必要に応じ随時文法事項の説明を加えます。	[講義計画] 前期 ユニット1 ユニット2 後期 ユニット3 ユニット4			
[成績評価の方法] 期末試験に出席と平常点を加味して総合評価する。	[参考文献] 辞書必携			
[教科書] 董燕・遠藤光暁『話す中国語 北京篇3』（朝日出版社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱ a 中国語Ⅱ b	0 4 0 4	通 期 通 期	2 単位 2 単位	ジヨ 徐 コクギョク 国 玉
[講義概要・学習目標] 1年次で学んだ基本的な文法事項を再度確認、復習して、より詳しく体系的な文法を勉強します。併せて日常会話の能力を向上させるように「話す」「聞く」ことは反復練習を行います。 より詳しく体系的な文法を習得して、簡単な日常会話の能力を身につけることがこの授業の目標です。	[講義計画] 【前期】 第1課～第7課 【後期】 第8課～第15課			
[成績評価の方法] 成績は出席状況、授業態度、平素の小テストの評点または前期、後期のテストの評点で総合的に評価します。	[参考文献] 『精選日中・中日辞典』（東方書店）			
[教科書] 『中国語スピーキング倶楽部』相原茂など著（朝日出版社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱ a 中国語Ⅱ b	0 5 0 5	通 期 通 期	2 単位 2 単位	リン 林 コウサク 宏作
[講義概要・学習目標] 中国語Ⅰで修得した発音と語法をふまえて、語彙をふやし、読解力のスピードアップを目指す。受講生は必ず予習・復習を励行し、出席を怠らないこと。また毎課の後に附している練習問題は宿題として必ず提出すること。出席状況及び宿題の提出をもって平常点とする。	[講義計画] <前期> 復習編（一）～（五）及び応用編第1課～第5課 <後期> 応用編第6課～第14課			
[成績評価の方法] 平常点と前・後期の試験による。	[参考文献] 香坂順一 編『簡約 現代中国語辞典』 光生館			
[教科書] 丁秀山、坂井田ひとみ 編著 『日常的対話』				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語Ⅱ a		通期	2単位	徳 成 外志子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>朝鮮語初級修了者を対象に、テキストに沿って、より上の段階の文法、文型の学習を系統的に進めつつ、実用会話や旅行会話を中心に修得する。本年度のこの授業は、特に、会話能力を高めることに重点を置きたい。ビデオやテープを使って聞き取り能力を養い、授業はできるだけ朝鮮語で対話を行いながら進め、簡単な日常会話ができるようにもしたい。</p> <p>併せて、簡単な朝鮮語の読み物、民話、童話から、韓国の歌、新聞雑誌などまで多様な文章を副教材として取り上げ、読書能力も高めると同時に、韓国の生活や風俗、文化の一端が理解できるようにしたい。</p> <p>また、朝鮮語で自己紹介をしたり簡単な日記や手紙を書いたりして、学んだ語彙や文法の範囲で自由な作文を行い、朝鮮語で考え、朝鮮語で自己の意思を表現する基礎的練習を行う。</p> <p>授業は基本的に韓国で使われている言葉を中心に学び、朝鮮民主主義人民共和国で韓国と異なって使われている部分は、適宜補注していきたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>前期：1. テキストの1課本文から、初級の発音、文法の復習をかねて行い、15課当たりまで進む。 3. 簡単な副教材プリントや歌、ビデオなど。 4. 初歩的な作文と会話。</p> <p>後期：1. テキスト16課から32課まで。 2. やや高度な内容の副教材プリントや歌、ビデオなど。 3. 作文や実用会話。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前・後期末に行うテストの比重が最も高い(60%)が、それに出席(30%)や普段の課題への取り組み(10%)を総合的に評価する。語学は特に、出席と普段の授業の予習・復習が大切である。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>辞書等は授業で説明する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>李昌圭『CDぶっく はじめての韓国語』ナツメ社、2000</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語Ⅱ b		通期	2単位	青 野 正 明
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>辞書を引いてより高度な文章の読解をする。「朝鮮語Ⅰb」で学んだ基礎力をもとに、読解と同時進行で文法をしっかりと学びながら、徐々に難しい文章の翻訳に進む予定である。</p> <p>この時期は、日本語の文法と似ていることがわかっていいため、高度な文法の理解も容易であろう。</p> <p>1年間を終えた段階では、辞書を引きながら新聞記事や簡単な論説文を読むことができるだろう。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>初歩的な文章から始めて、だんだんと難易度を上げながら翻訳していく計画である。流行歌の歌詞、童話や、新聞記事、論説文なども教材にする予定である。翻訳と同時に、翻訳を解説するために教科書を用いながら文法の説明もおこなう。教科書は、文法の辞書とでも言うべき内容のものを選んだので、翻訳しながらの文法学習には大いに役立つものと思う。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>朝鮮語学研究会編『朝鮮語を学ぼう』三修社、1987年</p>				